

578

全國小學校教育
精神作興大會
御親閱記念誌

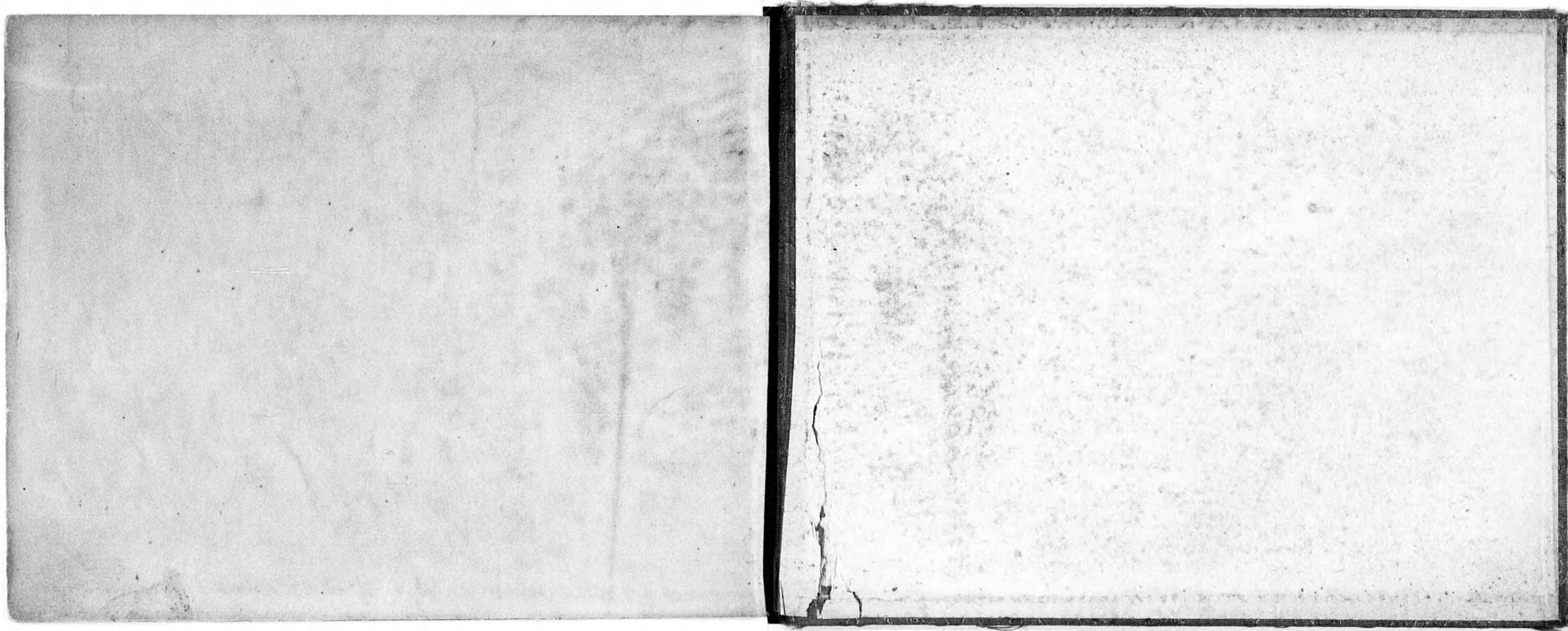
264-66
1200501356140

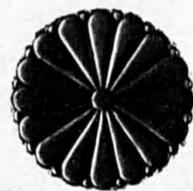
264
66

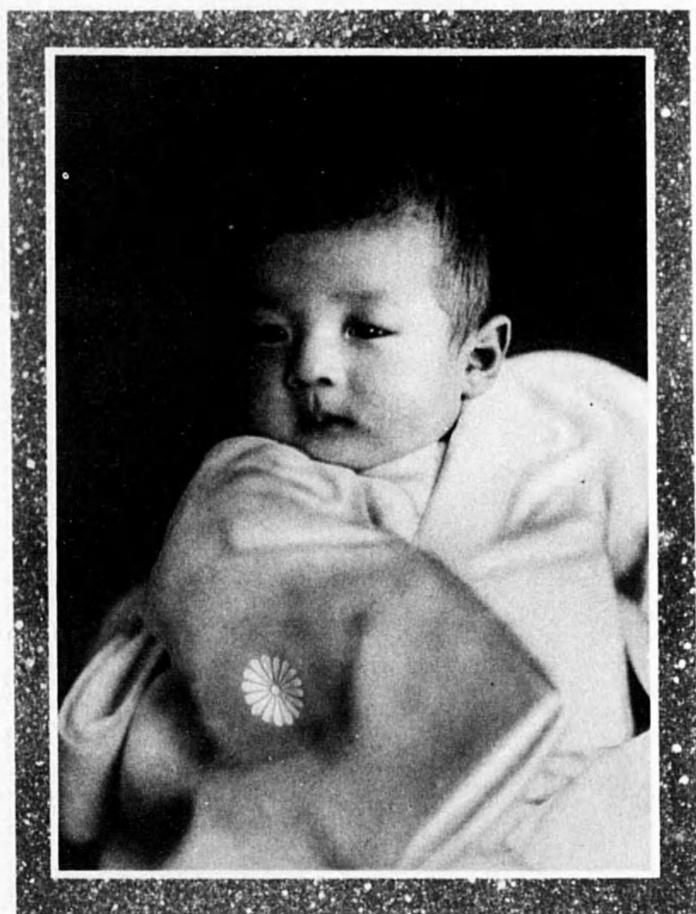


始



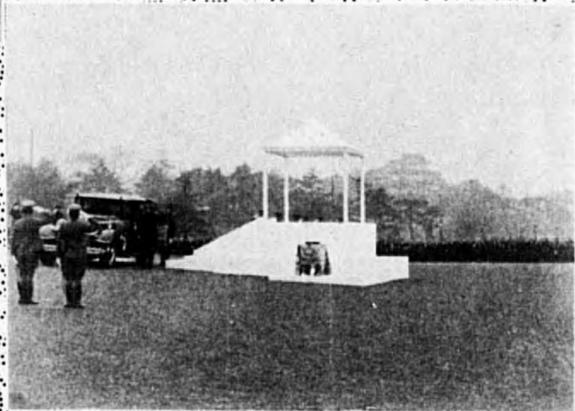
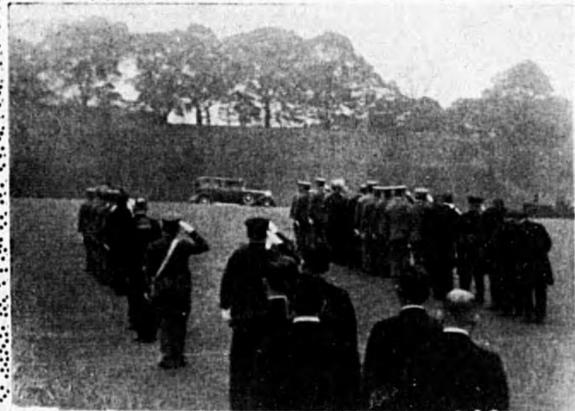






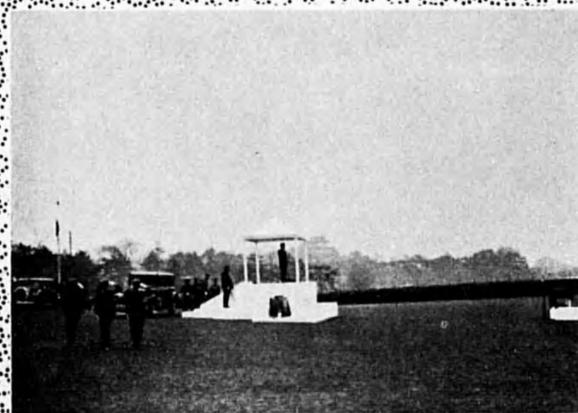
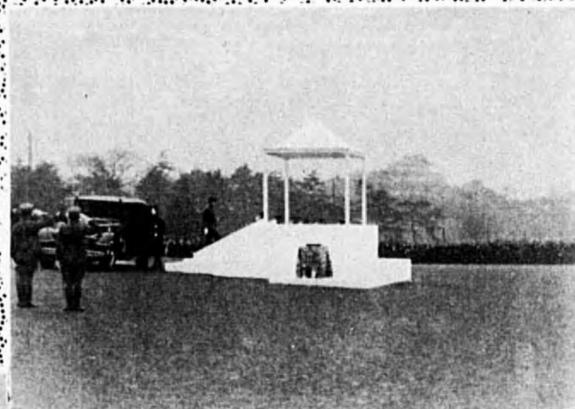
國民道德ヲ振作シ
以テ國運ノ隆昌ヲ
致スハ其ノ淵源スル
所實ニ小學教育
ニ在リ事ニ其ノ局ニ
當ルモノ夙夜奮勵
努力セヨ

迎奉手舉員總に裡奏吹バツラ代が君 (一)

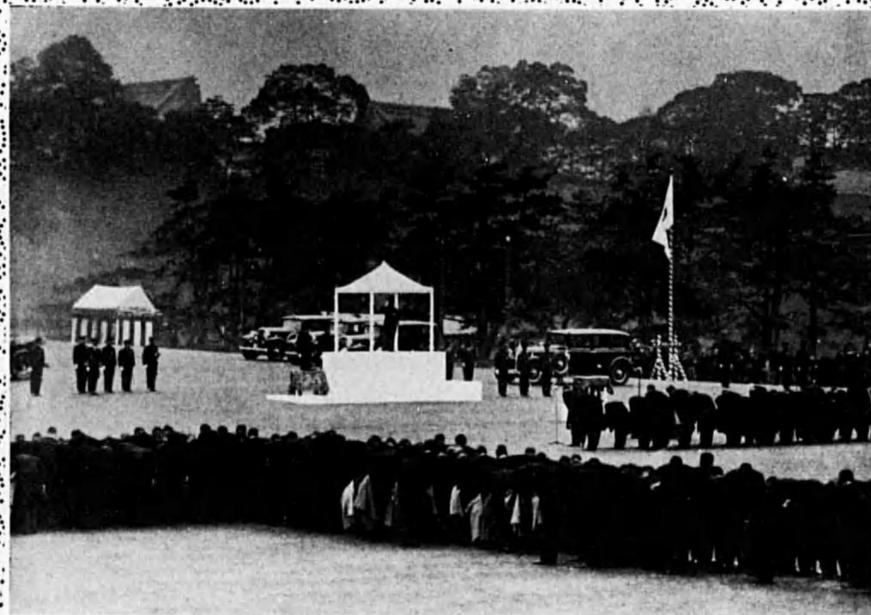


車 下 御 (二)

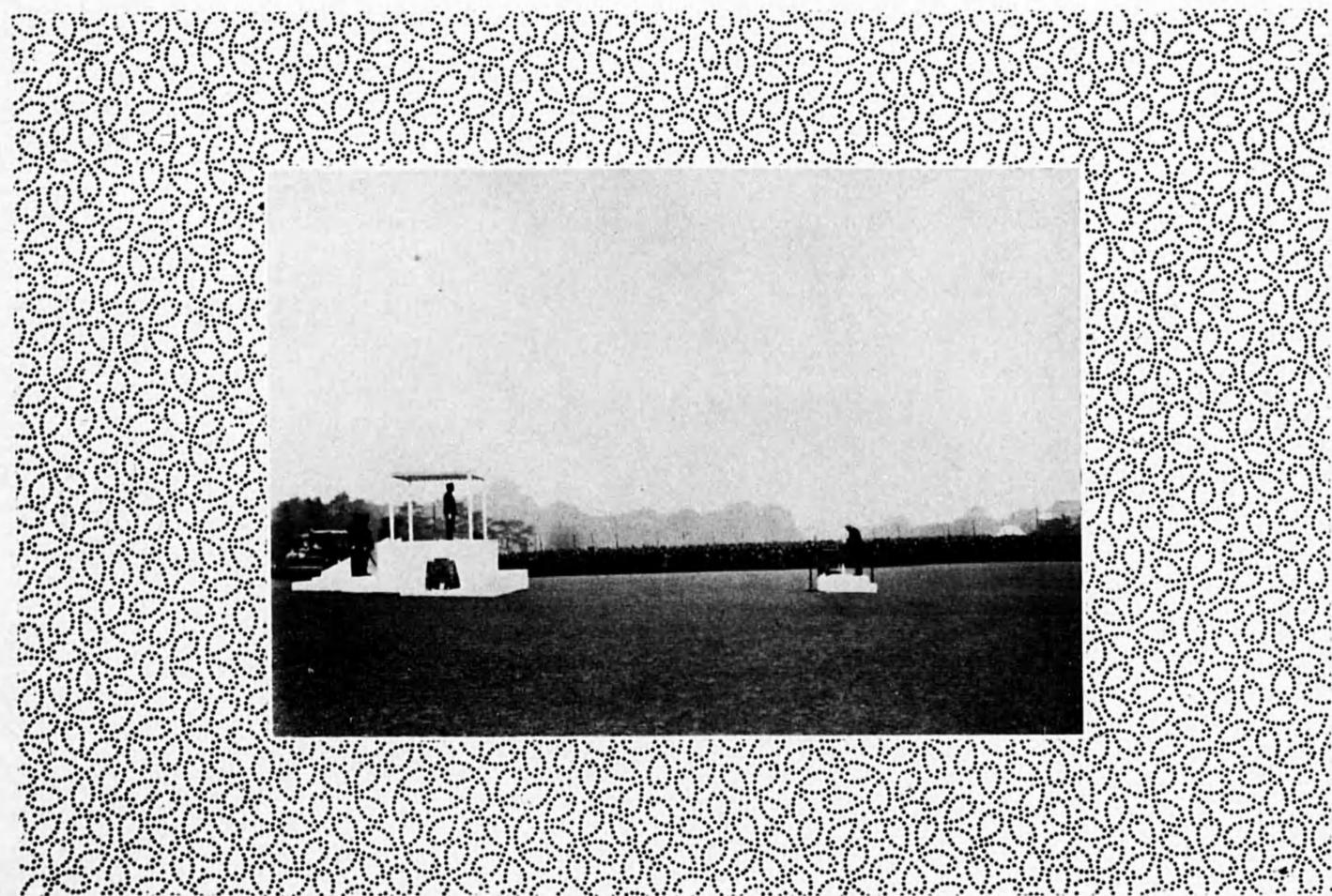
壇 登 御 (三)



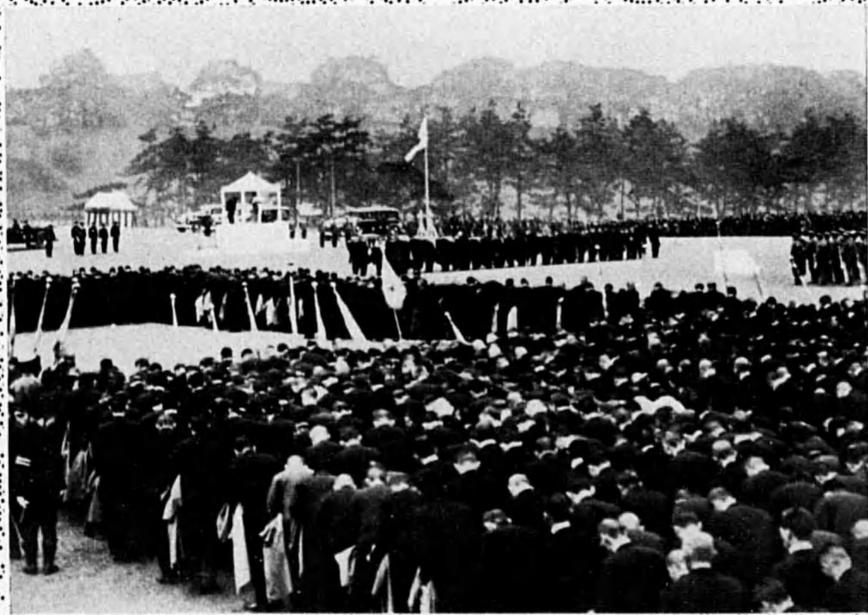
ふ給せさけ受を禮敬最に上壇座玉 (四)



るは賜を禮御の手舉中禮敬最員總 (五)

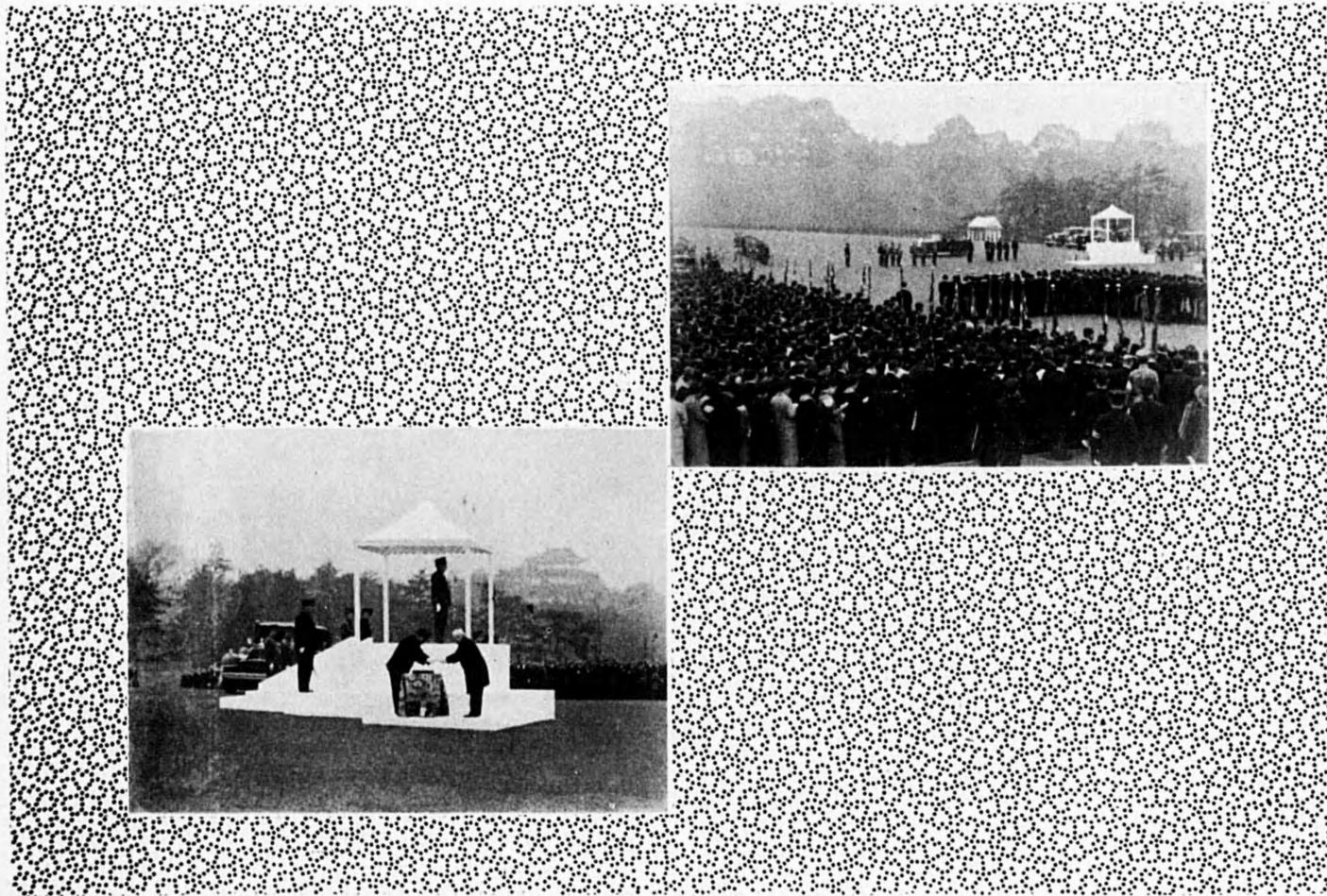


上奏旨る奉け受を閏親御臣大部文 (六)



るは賜を語勅にか朗聲御 (七)

歌祝奉生誕御下殿子太皇るす望遠を城宮 (八)



受拜りよ長從侍を語勅臣大部文 (九)

教育之
源泉

昭和九年秋

泉水實題



教育培國本

湯溪倉平謹書



震美一变主一最

一平



震美一变主一最

張大千印

又

四知九達於

五門

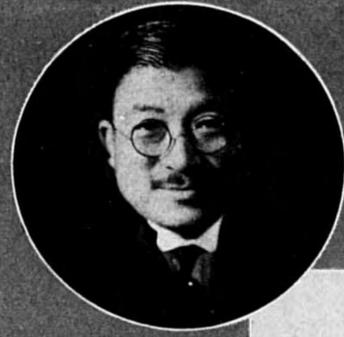
張大千

印

氏郎一山鳩 臣大部文前

氏實藤齋 臣大部文

氏平倉淺湯 臣大内宮



長會副會員教校學小國全
長校校學小常尋和浦玉埼
氏美近山丸

長々會員教校學小國全
長々校學小等高谷下京東
氏郎次平川下

長會副會員教校學小國全
長々校學小滿天西市阪大
氏郎次辰本椋

文部次官
栗屋謙氏

文部次官
東郷實氏

與 參

文部參事官
石坂 豐一



文部省通學務局長
武部 欽一



文部省專門學務局長
赤間 信義



文部省實業學務局長
菊池 豐三郎



文部省社會教育局長
關屋 龍吉



文部省圖書局長
芝田 徹心



文部省宗教局長
下村 壽一



文部省學生部長
伊東 延吉



文部省督學官
篠原 助市



文部大臣秘書官
新居 善太郎



文部省技師
柴垣 鼎太郎



文部省秘書課長
菊澤 季麿



文部省會計課長
河原 春作



文部省體育課長
山川 建



與 參



與 參

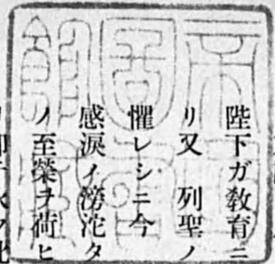


總務



文部大臣奉答文

曩ニ 皇太子殿下御誕生アラセラレ竹ノ園生ノ彌榮エニ榮エサセラレ 皇統
 無窮ニシテ國礎倍々固ク 皇威八紘ニ光被スルヲ仰ギ奉リ九千萬ノ同胞欣躍
 抃舞ノ至ニ禁ユルナシ殊ニ全國ノ小學教育ニ從事シ次代ノ國民ヲ養成スルノ
 任ニ在ル者幸ニ此ノ昭代ニ生レテ此ノ盛事ニ會ヒ歡喜極マル所ヲ知ラズ乃チ
 祥雲搖曳シ瑞氣洋溢セル 皇城ノ畔ニ集リ聲ヲ合セテ嵩呼シ恭シク 皇儲殿
 下ノ降誕慶祝ノ誠ヲ表シ奉リ更ニ國民精神ヲ作興シテ益々教育ニ涓埃ノ力ヲ
 致シ宏大ナル 聖恩ノ萬一ニ報イ奉ラムコトヲ期スルニ際シ畏クモ
 天皇陛下ニハ親シク 臨御シ給ヒ特ニ 御親閱アラセラレ又親シク優渥ナル
 勅語ヲ賜フ寔ニ恐懼感激ノ至ニ勝ヘズ臣等夙ニ
 陛下ガ教育ニ關シ深ク 軫念アラセラレ屢々 優詔ヲ降シ給ヒタルヲ拜シ奉
 リ又 列聖ノ文教ニ關スル 聖諭ヲ仰ギ奉リ夙夜或ハ悖ルアラムコトヲ是レ
 懼レシニ今 天顏ニ咫尺シ奉リ剩ヘ 聖勅ヲ拜シ奉リ恐悚措ク所ヲ知ラ
 感涙ノ滂沱タルアルノミ 臣等教育者トシテ此ノ無上ノ 天恩ニ浴シ此ノ無
 ノ至榮ヲ荷ヒ深遠ナル 聖慮ヲ拜察シ奉リテ責務ノ益々重キヲ思フコト切ナ
 リ即チ永ク此ノ光榮ヲ心肝ニ刻シ身命ヲ獻ゲテ教育ノ爲ニ策進シ以テ 聖恩
 ノ萬分ノ一ニ報イ奉ラムコトヲ期ス 臣實乏チ文教ノ府ニ承ケ今日此ノ盛事ニ
 際會シ此ノ光榮ニ浴シ感激殊ニ深シ自今益々 聖旨ヲ奉體シ全國ノ小學教育
 者ト共ニ日夜淬勵以テ 臣等ノ職責ヲ竭サムコトヲ誓ヒ奉ル 臣實誠惶誠恐謹テ
 奉答ス



文部大臣訓辭

瑞祥正ニ溢ルル 宮城ニ重橋ノ畔ニ於テ茲ニ全國ノ小學教育ニ從事スル者相會シ聲ヲ一ニシテ

皇太子殿下ノ御誕生ヲ奉祝シ且ツ國民精神ヲ作興シテ齊シク微涓ヲ教育ニ致サムトスルニ當リ 畏クモ

天皇陛下ニハ特ニ 臨御アラセラレ 御親閱ヲ賜リ加之優渥ナル 勅語ヲ賜ヒテ小學教育ノ重ンズベキ旨ヲ昭示シ給フ寔ニ恐懼感激ノ至ニ堪ヘズ 吾等教育者トシテ 天顏ニ咫尺シ奉ルサヘ既ニ終生得難キノ光榮ナリ然ルチ況ヤ吾等奉祝ノ聲ヲ親シク 天聽ニ達シ猶ホ且ツ近ク 玉音ヲ拜スルヲヤ國民教育ヲ重ンジサセ給フ 淑慮深遠ナルヲ拜シ奉リテハ眞ニ恐懼感激措ク所ヲ知ラズ

謹デ惟フニ 皇祖統ヲ垂レ 天孫國ヲ肇メ給ヒシヨリ 皇統連綿トシテ 寶祚ノ隆ンナルコト天壤ト俱ニ窮リナク國體ノ尊嚴ナルコト萬邦ニ其ノ比ヲ見ズ國民舉ツテ世世其ノ忠誠ヲ致ス是レ我が國民教育ノ根本ニシテ國運興隆ノ源泉亦實ニ此ニ存ス然ルニ今靜ニ現時ノ世態ニ察シ時運ノ趨向ニ顧ミルトキハ國體ノ本義ニ基キ益々我が國民精神ヲ作興シ國本ヲ培養シテ 皇運ヲ扶翼シ奉ルノ殊ニ急ナルヲ思フ

本日 御親閱ノ光榮ヲ辱ウシ且ツ優渥ナル 聖勅ヲ拜シ身國民教育ノ任ニ在ル者ノ責務益々重キヲ自覺シ身命ヲ獻ゲテ一意君國ニ盡スベキ旨ヲ既ニ 至尊ノ御前ニ於テ肅然トシテ誓ヒ奉レリ 予推サレテ全國小學校教員精神作興大會ニ總裁タリ切ニ望ムラクハ此ニ集マレルト否トヲ問ハズ又海ノ内外ヲ論ゼズ我が國民教育ニ從事スル者ガ協心戮力益々發奮策勵シテ健全ナル國民ヲ養成セムコトヲ期シ以テ 聖恩ノ萬分ノ一二報イ奉ランコトヲ

昭和九年四月三日

文部大臣 子爵 齋 藤 實

内閣總理大臣祝辭

曩ニ 皇太子殿下降誕アラセラレ九千萬ノ蒼生歡喜措ク所ヲ知ラズ歡呼ノ聲四海ヲ壓ス而シテ我が小學教育ニ從事スル者獨リ國內ニ止ラズ遠ク海外ヨリモ來リ會シ茲ニ奉祝ノ赤誠ヲ披瀝シ奉リ國民精神ノ作興ヲ圖ルヤ 畏クモ

天皇陛下 臨御アラセラレ 御親閱ヲ賜ヒ且優渥ナル 勅語ヲ賜フ寔ニ恐懼感激ノ至ニ堪ヘズ惟フニ今日ノ光榮ハ實ニ此ニ集マレル者ノミナラズ又實ニ我が小學教育従事者ノ齊シク浴シタルノ至榮ナリ而モ此ノ如キハ實ニ小學教育ヲ重ンジサセ給フノ 聖慮ニ出ヅルモノト拜察シ奉リ當事者ノ責務一層重大ナルヲ感ゼザルベカラズ顧ミレバ 明治天皇維新ノ當初學制ヲ頒布アラセ給ヒ邑ニ不學ノ家ナク家ニ不學ノ人ナカラシメムコトヲ 宣示アラセ給ヒシヨリ小學教育ノ普及ニ伴ヒ國運ノ進展前古ニ比ナク國光宇内ニ輝クニ至レリ

大正天皇 明治大帝ノ御遺緒ヲ紹述アラセラレ更ニ大ニ教化ヲ布キ給フ 天皇陛下 列聖ノ御遺圖ヲ繼ガセラレ大ニ 皇謨ヲ恢弘アラセ給ヒ益々國民教育ノ振興ヲ獎勵シ給ヒ今又茲ニ 御親閱ヲ賜フト共ニ 優詔ヲ降シ給フ小學教育従事者ノ光榮眞ニ極レリト謂フベシ關係者タルモノ深ク之ヲ心肝ニ銘シ 聖旨ヲ奉體シ粉骨碎身踴勉其ノ職務ニ盡シ以テ 皇恩ノ萬分ノ一二報イ奉ラムコトヲ望ム一言所懷ヲ陳ベ聊カ以テ祝辭ニ代フ

昭和九年四月三日

内閣總理大臣 子爵 齋 藤 實

宣 言

皇紀二千五百九十四年 神武天皇祭ノ盛辰ニ方リ全國小學校教員代表者相會

シ茲ニ精神作興大會ヲ開キ 宮城前ノ 聖域ニ參集シテ

皇太子殿下ノ御誕生ヲ奉祝シ 皇室ノ御繁榮極リナク國基ノ愈々固キヲ拜シ

テ一齊ニ歡呼ノ赤誠ヲ捧ゲムトスルヤ畏クモ

天皇陛下親シク 臨御アラセラレ 御親閱ノ榮ヲ賜ヒ剩へ優渥ナル 勅語ヲ

賜ハリ小學教育者ノ責務至大ナルコトヲ諭サセ給フ 聖旨宏遠寵榮至深ニシ

テ寔ニ恐懼感激ノ至ニ勝ヘズ

謹ミテ惟ミルニ

皇祖天壤無窮ノ 神勅ヲ降シテ

天孫ヲ此ノ土ニ君臨セシメ給ヒシヨリ

列聖相承ケ萬世一系ノ 皇統連綿トシテ彌々榮エサセラレ國體ノ尊嚴ナルコ

ト萬邦ニ比類ナク仁慈以テ生民ヲ愛重セラレ義ハ是レ君臣ニシテ情ハ猶ホ父

子ノゴトク上下悠久三千年臣民世世忠誠ヲ竭シテ 天業ヲ翼賛シ奉リ國體ノ

精華愈々發輝セラレテ國民精神ノ本源益々涵養セラレ 皇風ハ八紘ニ布キ國

光ハ六合ニ輝ク

吾等職ヲ小學校ニ奉ジ事ニ國民教育ニ從ヒ敢テ驚駭ヲ策ツテ偏ニ教化ヲ重シ

シ給ヘル

列聖ノ 皇謨ニ率由シ日夜微力ノ及バザラムコトヲ是レ恐レタリシニ復々新

ニ 聖勅ヲ賜ハリ 靛慮ノ深遠ナルヲ拜シ奉リテ感泣極マリナシ

今乃チ 御親閱ヲ終ハリ 鳳輦ヲ送り奉レルニ際シテ吾等此ノ無限ノ感激ヲ

長ヘニ力アラシメ此ノ無上ノ 恩榮ヲ永ク光アラシメムガ爲メ齊シク天地神

明ノ照鑑ヲ仰ギ一同虔ミテ 聖旨ヲ奉體シ今後益々國民道德ヲ振興シテ國運

隆昌ノ基根ニ培沃シ夙夜踴躍愈々教育報國ノ志ヲ固クシ確乎不拔ノ操守ヲ一

貫シ名教ヲ以テ樂地トナシ身命ヲ獻ゲテ君國ノ爲ニ盡瘁シ以テ 皇恩ノ萬一

ニ報イ奉ラムコトヲ誓フ

決 議

一吾等ハ協心戮力國民道德ノ爲ニ邁進シ愈々國民精神ヲ發揚シテ肇國ノ 宏

謨ヲ國民教育ノ上ニ光輝アラシメムコトヲ期ス

一吾等ハ至誠一貫職分ヲ樂ミ身ヲ以テ範ヲ示シ師表タルノ本分ヲ完ウセムコ

トヲ期ス

昭和九年四月三日

全國小學校教員精神作興大會

文部省訓令第四號

天皇陛下畏クモ本月三日全國小學校教員代表者ヲ 御親閱アラセラレ且ツ親

シク左ノ 勅語ヲ下シ給ヘリ

國民道德ヲ振作シ以テ國運ノ隆昌ヲ致スハ其ノ淵源スル所實ニ小學教育ニ

在リ事ニ其ノ局ニ當ルモノ夙夜奮勵努力セヨ

本大臣ハ茲ニ優渥ナル 聖旨ヲ拜シテ感激措ク所ヲ知ラズ謹ミテ之ヲ全國一

般ニ告知ス

恭ミテ以フニ

天皇陛下夙ニ 教育ノ事ニ 軫念アラセラレ曩ニ勅語ヲ下シテ教育ニ從事ス

ル者ノ嚮フ所ヲ諭サセ給ヒ茲ニ重ネテ小學教育ノ重ンズベキ所以ヲ昭示シ給

フ 聖旨深遠洵ニ恐懼感激ノ至ニ勝ヘズ願フニ方今我邦内外ノ情勢ハ極メテ

重大ニシテ國民タルモノ協心戮力國民精神ヲ作興シ國本ヲ培養シ以テ皇暉ヲ

發揚シ國家ノ隆興ヲ期セザルヘカラズ

任ニ教育ニ在ル者特ニ意ヲ此ニ致シ夙夜淬礪益々國民道德ヲ涵養シテ教育ノ

徹底ヲ圖リ堅實有爲ナル國民ヲ養成シテ國運ノ進展ニ裨補セムコトヲ期シ一

意鞠躬盡瘁能ク其ノ責務ヲ全ウシ以テ 聖旨ニ副ヒ奉ラムコトヲ期スベシ

昭和九年四月五日

文部大臣 子爵 齋 藤 實

文部大臣謹話

茲ニ 神武天皇祭ノ佳辰ニ方リ全國小學校教員代表者ガ 宮城前ノ廣場ニ會同シ

皇太子殿下ノ御誕生ヲ奉祝申上ゲ兼ネテ小學校教員ノ精神作興ヲ期スルニ際シマシテ畏クモ 天皇陛下ニハ特ニ 行幸ヲ仰出サレ 御親閱ヲ賜ハリマシタコトハ全國小學教育ノ任ニ當ル者ニ取リマシテ眞ニ無上ノ光榮トスルトコロデアリマスノニ加之忝ケナクモ 勅語ヲ下シ賜ハリマシテ小學教育ガ國民道德ヲ振作シ以テ國運隆昌ヲ致ス淵源デアアル旨ヲ論シ給ヒ局ニ在ル者發奮努力スベキコトヲ示サセ給ウタノデアリマス

陛下ガ 大御心ヲ教育ニ留メサセ給フノ深キハ寔ニ恐懼感激ニ堪ヘナイ所デアリマス

念フニ 明治天皇ノ御時夙ニ教育ノ制度ヲ定メサセラレ又國體ニ基キテ國民道德ノ大本ヲ示サセ給ヒ 大正天皇亦屢ニ 聖訓ヲ垂レテ教育ノ振作ヲ圖ラセ給ウタノデアリマスガ 陛下ニオカセラレテハ更ニ 列聖ノ 洪謨ト 前皇二代ノ 鴻緒トヲ承ケサセラレ畏クモ曩ニハ 聖勅ヲ下シタマハツテ師表タル者ノ德化ニ俟タサセラレ今復小學教育ノ重ンズベキ旨ヲ示サセラレタノデアリマス

今ヤ我邦内外ノ實勢ニ積ヘ益ニ 國家觀念ヲ涵養シ國民道德ヲ振作シ以テ深く教育ノ實効ヲ收ムルニ勉メ以テ國運發展ノ根柢ヲ充實センコトヲ期セネバナラヌ秋デアリマス身教育ノ任ニ在ル者ハ勿論全國民ヲ舉ゲテ此ノ有難キ 聖慮ヲ奉體シ一致協力益ニ奮起緊張シテ堅實ナル國民ノ氣風ヲ興シ謹ンデ此ノ 聖旨ニ副ヒ奉ランコトヲ望ンデ止マヌ次第デアリマス

各 場 面 寫 眞



徳富蘇峰先生履歴の物語

國民道徳振作
以國運隆昌
致其訓練所
實小學教育
事其局當
夙夜奮勵努力
昭和九年四月
徳富正敏書



明治神宮祈願参拜當日記念撮影(鳩山文相邸)





東京府代表
日比谷公園集會所全景



東京府代表
日比谷公園集會所



東京府代表
日比谷公園集會所



千葉縣代表
京橋昭和小學集會所



臺灣代表
一二八團昌平館出發



山梨縣代表
永田小學集會所



和田倉門口受付に向ふ地方代表 ↓

地方代表
祝田門口受付参入 ↓



↑
地方代表拓務省前
祝田門口受付に前進



東京府代表
日比谷公園前進 ↓



↑
東京府代表
日比谷公園集会所出發



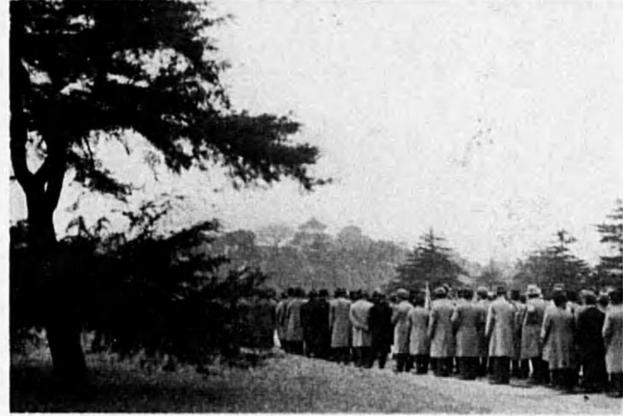
↑
地方代表
議事堂附近前進



↑
地方代表和田倉門口
受付所附近通過參入 其二



↑
東京府代表
馬場先門口受付參入



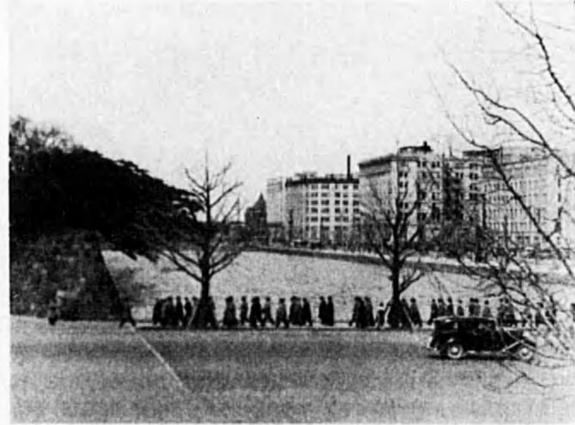
↑
地方代表和田倉門口
受付所通過參入(其一)

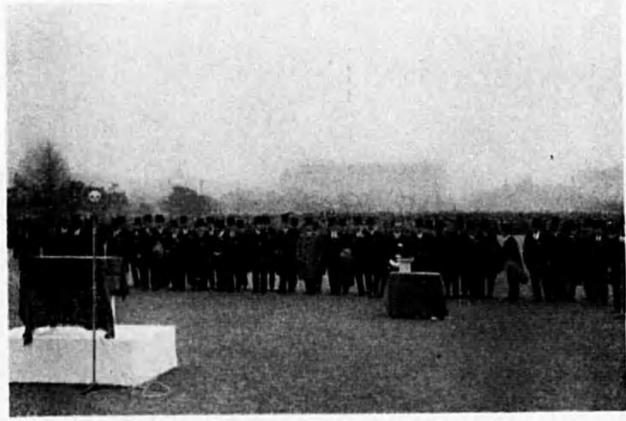


↓
地方代表
馬場先門口參入



↑
地方代表
和田倉門口受付參入



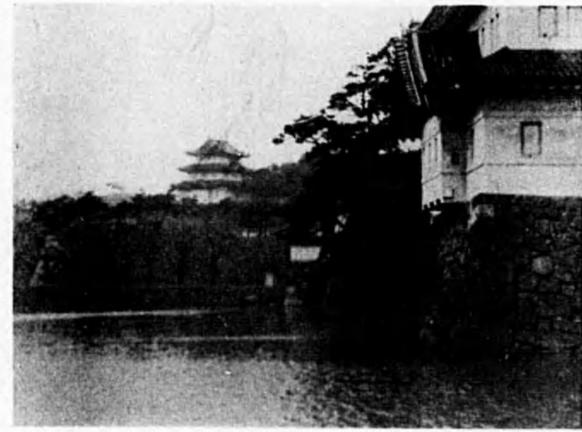


東京府代表臨御を待ち奉る
(二重橋前其一)

總裁參與整列して
臨御を待ち奉る(其二)



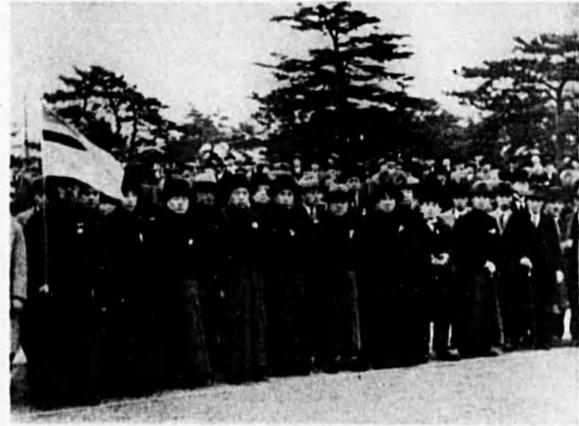
↑
總裁參與整列して
臨御を待ち奉る(其一)



↓
滿洲國參列員



↑
各代表團旗を前にして整列



↑
春雨しとどに御も煙るお漆端點景



臨御直前の齋藤文部大臣(其一)



↑ 臨御を持ち来る來賓(其二)

↑ 臨御を持ち来る來賓(其一)



臣大部文兼相首藤齋るけ於に内幕天所集參



(二其前橋重二)る奉ち持を御臨表代府京東

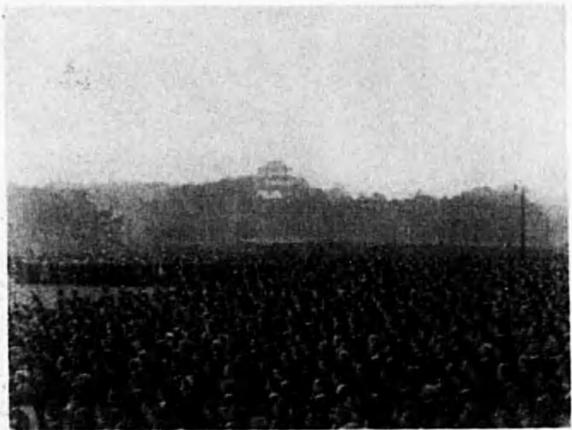




部隊前進御視閲を仰ぐ ↓



↑ 陸軍々學隊君が代吹奏

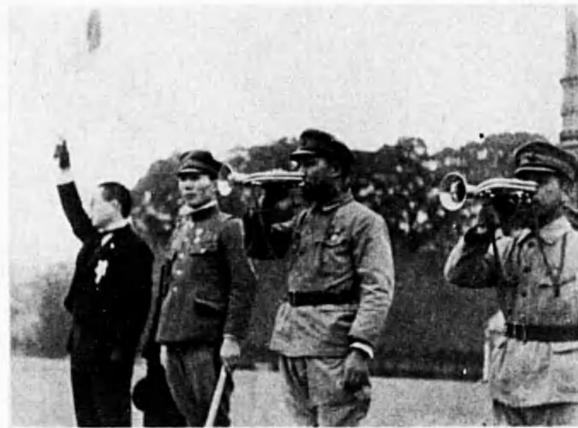


↑ 君が代奉唱

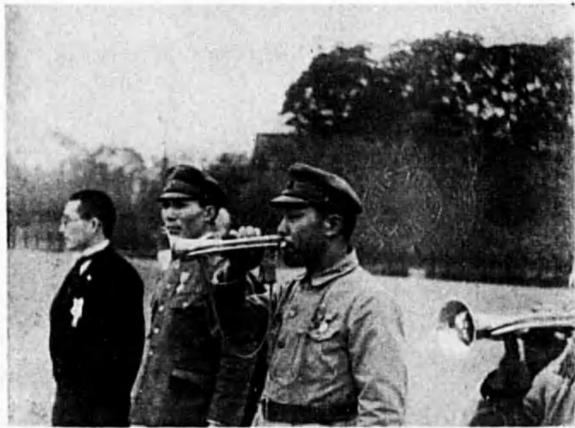


↓ 合團のラッパ

↓ 國旗掲揚の合團



↑ 臨御直前の
齋藤文部大臣(其二)



精神作興大會に於いて文部大臣奉讀



精神作興大會總會長副祝詞

精神作興大會
會長開會の辭

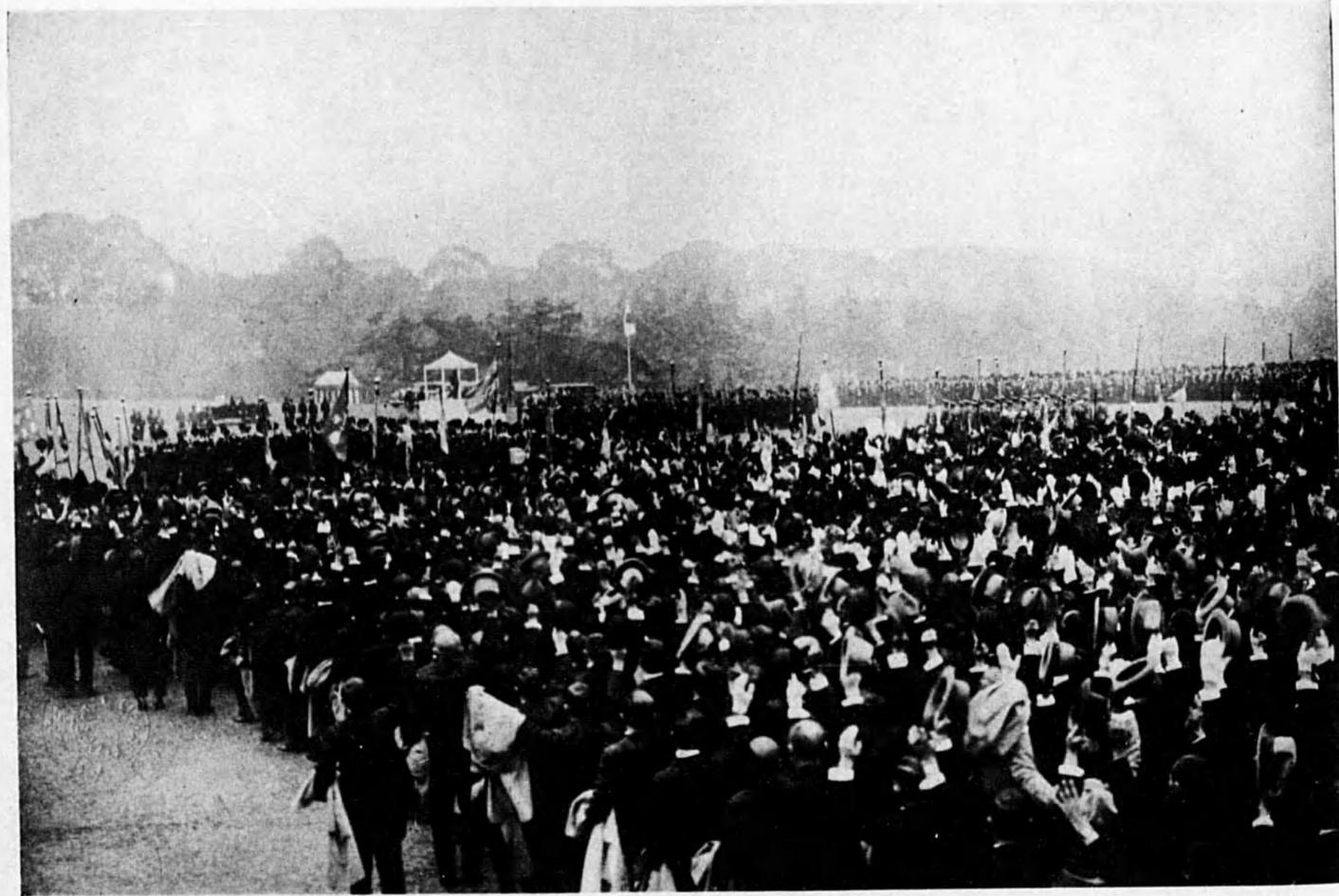


皇太子殿下御誕生
奉祝歌齊唱



帽子を上げて
天皇陛下萬歳奉唱





三萬六千名 賜閱團萬歲三唱



精神作興大會 宣言決一 拍同手

精神作興大會 宣言決一 拍同手



全國小學教員代表者御親閱
全國小學教員精神興大會

報 告 書



日比谷公園集會場に於ける東京府代表

御親閲と 勅語御下賜

全國小學校教員精神作興大會に際して

武部 欽一

昨秋大阪に全國聯合小學校教員會が催された時、從來教育者が會合すると、その議題となるものは待遇の改善とか、増俸とかいふやうなことであつて、之を當局者に建議などすることが、普通の例となつて居るが、現下の時局に鑑み、又教育界の現狀を顧みる時は、こんな政府や當局者に物を求むるが如きことばかりをしないで教育者が自奮自勵して、自らの精神を緊張せしめ、又大いに國民精神の作興を圖つて、國家の爲に貢獻するやうに努めなければならぬではないかとの説が、誰いふとなく自然に會同者の間に發生した。然るにその後十二月二十三日 皇太子殿下の御誕生あらせられるや、こんなおめでたいことはなく、小學教育者として、奉祝の赤誠を表し奉ると共に、之を機として教育者の精神を作興しなければならぬとの議が聯合小學校教員會に起つて即ち全國の小學校教員代表者が、宮城前廣場に整列し奉祝の赤誠を披瀝し精神の向上と徳化の普及に備へ以て師表たるの天職に應ふる所ならんとし尙其の際 御親閲を賜はり 龍顏を拜し奉ることを得るならば實に參列者の光榮のみならず御慈惠汎く全國の教員に及ばんとして十二月二十八日教員會から、此旨を文部大臣に申請した。鳩山文相は、申請の趣旨を容れられて文部省に於て、全國聯合小學校教員會を援助して、その計畫を立案せしめらるゝことになつた。鳩山文相は、當時 天皇陛下が拜謁を賜はりたる際に、教育上のことに就いて御下問があらせられたので、小學校教員の間には精神作興大會を催さんとする計畫ある趣を奉答された由に傳聞する。

如上の 皇太子殿下御誕生を奉祝し、又精神の作興を圖る爲の全國小學校教員代表者の大會は四月三日舉行することとし、全國聯合小學校教員會が表面の主催者となるけれども、之が開催に就いては文部省が之を援助し、實施に關する諸般の仕事は實際上すべて文部省に於て行ふこととして教員會と、文部省とが互に協力して、準備を行ふこととなつたのである。而して全國の小學校教員はこの計畫を知らしめ、その趣旨を徹底して參加を求むるには、どうしても地方廳當局者の力に依らなければならぬのであるから、文部省から地方廳に通牒して本年二月十六日を以て、道府縣の學務課長又は視學官を文部省に招集してこの計畫を發表すると共に、その實施に就き地方當局者の援助努力を求むることとなつた。而して大會には外地及び海外からも教員の參加をなさしむる必要があるもので、會議には、拓務及び外務の兩省よりも當局者の出席を求めたのである。二月十四日に文部大臣から宮内大臣に對し四月三日の全國小學校教員精神作興大會に 天皇陛下の 御親閲を仰ぎ奉りたく執奏方を申請せられた處、翌十五日に宮内當局から文部當局に對し 行幸あらせられて 御親閲を賜はる 御内意あらせらるゝ旨の洵に有り難き次第の内報があり且つこのことは十六日の會議に於て發表しても差支へないとのことであつたので、文部當局はこの有難き御恩命を拜承して感激の極みに達し、關係者一同感

奮勇躍して準備事務に従つた。

二月十六日午前十時から、文部省の大會議室に於て、會議を開き地方廳からは學務課長又は視學官・外務・拓務・鐵道の各省當局者及び警視廳當局者等が集まり、文部省からは關係官が出席し、又全國聯合小學校教員會からも數名の役員が列席した。席上先づ栗屋文部次官から開會の挨拶を述べて「特に今回は、今上陛下親しく、臨御あらせられて、御親閱を賜はるとの、御内意もあらせらるゝとの趣を拜承しました次第であります」と發表した。續いて私から大會の計畫實行上の希望を述べ更に服部文部書記官から計畫案を逐次説明した。

この時發表した全國小學校教員精神作興大會の趣旨は「皇太子繼宮明仁親王殿下ノ御誕生ヲ奉祝セシガ爲全國小學校教員ハ吉日ヲトシテ 宮城前ニ集合シ赤子ノ葵心ヲ披瀝シテ 皇室皇國ノ萬歳ヲ三唱シ次デ精神作興大會ヲ開催シテ教育家タル自覺ヲ喚起シ兼テ天地神明ニ誓ヒ、協同一致以テ教育報國ノ志ヲ固メントス」るので、「全國ノ教員心ヲ同ウシ左提右挈道德ノ大綱ヲ持シ建國ノ本源ニ邁リ至誠ヲ以テ之ヲ一貫シ電勉以テ教育ノ事ニ從ハバ庶幾クバ聖世雨露ノ安恩ニ涓滴ノ報ヲ致スコトヲ得」るであらうといふのであつて、全國小學校教員精神作興大會規程を定め大會の事務所を文部省普通學務局に置き、全國聯合小學校教員會を主催者とし「全國小學校教員相會シ 皇太子殿下ノ御誕生ヲ奉祝シ 聖旨ヲ奉體シテ日本精神ヲ顯揚シ天地神明ニ誓ツテ、教育報國ノ覺悟ヲ宣明スルヲ以テ目的」とし、大會に参加する小學校教員數は、

一、道府縣管内各小學校より一名宛若くは小學校數に相當する代表者、但し東京府及び其の近縣にありては、成る可く多數參加すること

二、朝鮮・臺灣・樺太・關東州・南洋群島等の代表者各若干名

たることを標準とし、大會の役員には文部大臣を總裁として、文部政務次官及び文部次官を副總裁に推舉し、文部省の參與官・局長・地方長官・東京市長等を推舉して參與とし、又全國聯合小學校教員會の會長を大會の會長に任じ、大會の經費は寄附金・補助金を以て之に充つことに定めた。而して大會は昭和九年四月三日午後二時 宮城二重橋前廣場に於て、晴雨に拘らず實施することとし當日の 御親閱次第と精神作興大會の次第とを協議した。又參加者の員數及び詮衡、團體編成、旅費、服裝、輸送、宿泊、團體の集合、入場、解散に關する事項、役員並に分掌事務、本會と府縣との連絡に關する事項等を決定し、尙大會當日參加者が一齊に合唱すべき教育歌を發表した。

各府縣に於ては關係當局者の歸任後、この打合會議に於ける決定事項をそれらに發表して實施準備に着手したところ、小學校員のみならず、地方の官民一同にも多大の感動を起さしめて、或は縣參事會に於て大會參加者の爲に縣費を以て補助を行ふことに決議したり、或は町村會に於て參加教員に旅費の支出を決議するもの等も多く生じた。又文部當局は總務、庶務、設備、儀式、接待、記録、撮影、新聞放送、會計、團體、受付、警務、救護等に事務を分ち、殆ど不眠不休で準備に従事し、更に全國聯合小學校教員會の關係者三十八名が二月二十四日の早且打揃うて明治神宮に參拜し、嚴冬の候社頭に於て各自冷水を浴びて潔齋し、一同神前にひれ伏して諸般の行事の滞なく進行せんことを祈願し、誠心誠意を以て大會の事に従ふべきことを 御神靈に御誓ひ申した。

二月二十二日宮内大臣より文部大臣に對し、來四月三日 宮城二重橋前廣場に於て全國小學校教員代表者に依り舉行の全國小學校教員精神作興大會に 行幸あらせらるべき旨の正式通知があつたから、三月三日普通學務局長からこの趣を地方廳に通知した。

打合會に於ては、大會の出席者は三萬五千十一人と豫定し、之を各道府縣・朝鮮・臺灣・樺太・關東州にそれらに割當てたのであるが、御親閱の榮を賜はる旨が知れ渡つたが爲に、此の千載一遇の光榮に浴せんとして、各地方共に參加を希望する者が多數となつて、各地方からは割當人員の増加を續々として文部省へ希望して來た。併しながら遺憾ではあつたが會場の關係上、十分にその希望を満足せしむることが困難であつたので、結局三月十日を以て締切つて、出席總數を三萬五千六百八十九人に限定し、三月二十二日文部省から地方廳を経て參加申込者の全部に對し、大會參列に關する諸般の注意を記載したる小冊子を洩れなく發送配布した。該小冊子に記載した所のは、全國小學校教員精神作興大會に關しては、その日時及び場所、御親閱次第、精神作興大會の次第、並に參加者の注意事項であり、尙大會後引き続き行はるべき記念講演會、新宿御苑の拜觀其の他に關する注意が載せられたのである。

この間に於て、三月の初め端なくも、鳩山文相が辭任せられて齋藤首相が文相を兼攝せらるゝこととなつたが、新舊文相の事務引継ぎにあつたのは、先づ全國小學校教員精神作興大會 御親閱に關する事項が引継がれ、齋藤文相は當時帝國議會開會中で非常に多忙を極められてゐた際にも拘らず、特に御親閱に關する事務は熱心周密に之を統括指揮せられ、關係者一同は、文相の熱誠に感じた次第であつた。

何分にも三萬五千餘に上る多數の教員が、恰も一般民衆の旅行季節たる四月三日を期して帝都に集まることであるから、その輸送と宿舍の割當とは、これ亦裏面に於ける重大なる仕事であつた。そこで文部當局と打合せたる鐵道當局では、三十六本の臨時列車を發して特に大會參加者を輸送することとなり、又東京の旅館組合は各旅館の統制を圖つて大會參加者の宿泊に關し、便宜を圖ることとなつた。

大會參加者は、およそ四月一日頃から續々として團體をなして上京して來た。團體が着京するやその第一の行事は打揃うて先づ 宮城を拜し、明治神宮と靖國神社に參拜することであつて、誠心誠意を以て大會に奉仕することを誓つたのである。或る團體の如きは今回の旅行中禁酒禁煙を一同に於て誓つて實行したのもあつた。又旅館に宿泊中と雖も態度を謹嚴にして只管教育者たるの面目を發揮するに努めた。

愈々四月三日となつた。春とは言ひながら、早朝から雲が多くて、氣温が低く、膨らみさうな櫻の蕾も、再び凋せんとするやうな天氣であつた。然るに參列者は男子はフロックコート・モーニングコート等の服裝で、又女子は和裝或は洋裝で朝早くからそれらの集合所に集合し始めた、殊に宮城・福島・新潟・富山・石川・福井・長野・滋賀・京都・大阪・和歌山・岡山・香川・高知・長崎・大分・宮崎・鹿児島等の團體は、この日の早朝に到着したのであつて、長途旅行の疲勞を醫するの暇もなかつたのである。

全國から集まつた大會參加者は、病氣其の他の事故で當日豫定よりも少しく減少した。けれども尙

三萬五千三百二十二名に達して、その中男子三萬二百八十一人、女子五千四百四十一人である。更に之を各府縣別にすれば、

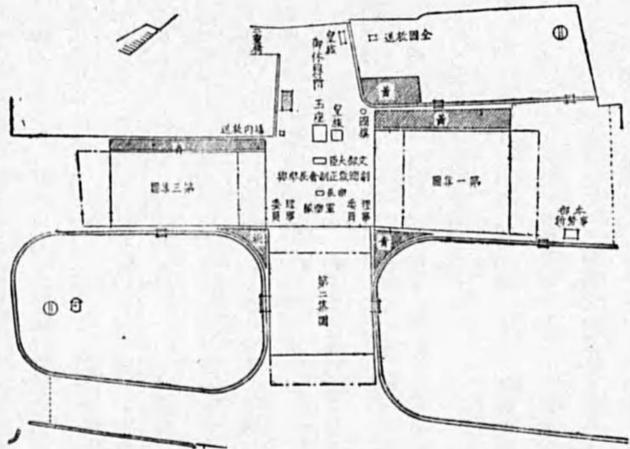
府縣	男子	女子	計
北海道	四三八	四三八	八七六
青森	二六八	二六九	五三七
岩手	二六七	二七五	五四二
宮城	二六二	二八八	五五〇
秋田	二〇八	二七二	四八〇
山形	二〇八	二〇八	四一六
福島	三三七	三七八	七一五
茨城	一四八	一五八	三〇六
栃木	一一〇	一一三	二二三
群馬	一五二	一八二	三三四
群馬	一五二	一八二	三三四
埼玉	一九三	二二七	四二〇
千葉	一八四	二二七	四一一
東京	七二七	九七三	一七〇〇
神奈川	一七六	二〇九	三八五
新潟	六六二	六八〇	一三四二
富山	二九〇	二八五	五七五
石川	二八五	二八五	五七〇
福井	二〇七	二〇七	四一四
山梨	六二二	六八一	一二〇三
長野	三九五	三九五	七九〇
岐阜	三九九	三九九	七九八
愛知	四三三	四八二	九一五
静岡	六五七	五六七	一二二四
三重	三六五	三六五	七三〇
滋賀	一六七	二二一	三八八
京都	三九三	三九五	七八八
大阪	五四八	五四八	一〇九六
兵庫	六六二	三〇	六九二
奈良	二八七	三〇	三一七
和歌山	二八九	二一七	五〇六
鳥取	二二七	三〇〇	五二七
島根	三〇〇	三〇〇	六〇〇
岡山	三三二	三三二	六六四
広島	四六四	二九	四九三
山口	二六四	二二	二八六
徳島	一六五	二〇	一八五
香川	二〇五	二〇	二二五
愛媛	三〇二	一九	三二一
高知	一五八	一七	一七五
福岡	五一八	一三〇	六四八
佐賀	一三〇	一四	一四四
長門	二三八	一四	三四二
熊本	四八一	一四	四九五
大分	二四四	一四	二五八
宮崎	二二七	一七	二四四
鹿児島	二八七	一七	三〇四
沖縄	五八	五八	一一六
朝鮮	五九	五九	一一八
臺灣	七九	七九	一五八
臺南	二六	二六	五二
關東州及滿洲府屬地	一九	一九	三八
南洋	一六	一六	三二
計	三二八八一	五二〇四	三八〇八五

であつて、なほ上海青島等の在外指定學校より一〇名が参加した。

これ等の三萬五千に餘る参加者は、東京府の参加者の全部が日比谷公園の廣場に集まれる外、市内に於ける二十三の小學校に分れて午前十時迄に集合を終つた。其處で宮城二重橋を浮彫にした圓形洋銀製の御親閲記念章を配布されて、各自が之を胸間に佩用し参加章とした。そして早きは午前十一時より遅きも午後零時五分を最後として各集合場を出發して四列縦隊を編成し、紫地に白字を以て府縣名と團名とを表した團旗を先頭に立て、歩武堂々整然たる隊伍を以て和田倉門、馬場先門及び祝田門口より宮城前廣場に入場し、午後零時半迄に入場を終つて指定の位置に整列した。この各府縣の小學校教員の團體には、當該府縣の學務部長、學務課長、視學官等が引率者として附添うたのであるが、東京以外の團體には別に東京市内の小學校長が一名宛各團毎に案内役として附添うた。

全國小學教員代表者を、御親閲あらせられ、又精神作興大會を催ふす式場は、瑞雲天に漲きり、祥氣地に滿つる宮城二重橋前の廣場である。二重橋を真正面に拜する通路の中央に玉座が設けられてある。白布を以て蔽うたる高さ五尺の臺の上に四本の支柱を立て、小さな天幕を屋根としたる極めて簡素なものである。玉座に面して約十五歩さがつて小さな臺を置き文部大臣が奉答文を奏する席が設けられてある。それより八歩後退して齋藤文相が起立し、なほ三歩後ろに東郷文部政務次官、栗屋文部次官の兩副總裁以下參與たる文部省の參與官、局長、地方長官、東京市長その他が横隊に整列

する位置が定められてある。而して是等を通つて東・南及び西の三方面の通路に、三萬五千餘の會衆が三個の集團に分れ、第一集團は凡そ百人宛の縦列が百二十一列となつて横に並び、第二集團は凡そ百二十人宛の縦列が百二十列、第三集團も凡そ百三十人宛の縦列が八十列となつて横に並んで、午後一時半迄に式前整列線に整列を終つて、廣い廣場を人以て埋め盡した。其の頃から生憎冷い春雨が



烟る如くに降り始めた。併しながら、雲霞の如き會衆は却つて肅然として緊張した。午後一時頃から小山法相、永井拓相、水町、鈴木、石渡、坂本、石塚の各樞密顧問官、財部、渡邊、荒木、阿部、山本、内山、眞崎の各陸海軍大將、河野會計検査院長、林檢事總長、其の他の陪觀者が入場した。齋藤文相も入場せられた。霧の如き雨がなほ降つて居つた。文部大臣を始め關係者一同及び陪觀者がそれ／＼指定の席に着いて式の開始の時間を待つて居つた。二時二十分に、秩父宮殿下朝香宮殿下東久邇宮殿下が台臨遊ばされた。天皇陛下の御臨幸は當初は午後二時の御豫定であつたが、宮中の御都合により午後二時三十分の御臨幸に御豫定が御變更になり、三月三十一日に宮内大臣から文部大臣宛に午後二時三十分御出門 行幸あらせらるべき旨の通知があつたから、豫て参加者には午後二時の御出門の趣に通知してゐた關係上、當日會衆にマイクローフォンを通じて御出門は午後二時三十分なる旨を告げた。かくして數萬の參列者は整然と居並び肅然として咳一つ發する者もなく、謹んで御出門をお待ち申上げて居つた。雨はなほ降り止まなかつた。此の時宮内當局から儀式係長たる服部書記官に、雨具を用ひても差支へない旨の御沙汰があらせられたことを傳へられたから、服部書記官はマイクローフォンによつて「只今御沙汰が御座いまして雨具を用ひても差支へないとのことで御座いますから御披露申す」と一同に傳へた。之を承つて並居る三萬五千餘の會衆は民草の上に御仁慈を垂れさせ給ふ大御心に感激した。又二月十六日の打合會當時に於ては、御親閲式に於て勅語を賜はることの如き全然夢想だもしなかつた所であつて、行事の如きも御親閲のみの御豫定を以て準備をなしたつたのであつたが、大會の開催せられる僅か前の日に至つて、當日勅語を賜はる有難き御思召あらせらるゝ趣を漏れ承はつたので、急にその際

の用意を致すことゝなつた。又會衆一同にも御儀式の進行上豫め之を心得しめておかなければ、萬一不敬にわたるやうのことがあつてはならぬと考へ、御出門の直前午後二時二十五分頃に儀式係長からマイクローフォンを通じて「今日の御親閲に當り畏くも天皇陛下には親しく勅語を下し賜はる趣やに拜承してをります、其の時には「最敬禮」の號令をかけます」と告げた。

午後二時三十分、二重橋の上に先驅の自動車が見れた。これと共に「氣ヲ付ケ」の喇叭が式場の東北隅に於て唳々と吹奏され、同時に文部大臣以下總ての會衆が不動の姿勢をとつて直立し、大國旗は翻翻として竿頭高く掲揚せられ、又楠公銅像の邊より煙花が打上げられて、軍樂隊によつて「君が代」の樂が吹奏された。幾萬の會衆は肅然として二重橋を仰いで、鹵簿を迎へ奉り、御車は徐ろに玉座の後方に着御あらせられ、各皇族殿下は玉座の東方に御整列になつて御車を迎へ遊ばされた。天皇陛下には御車を出でまして階を昇らせられ、南面して玉座に御起立遊ばされた。一同最敬禮の號令に従つて一齊に最敬禮を行つた。畏くも陛下には御答禮を賜はつた。この時宮城前に整列せる小學校教員代表者は、身に餘る有難さ勿體なきに言ひ知れぬ感激の情に打たれた。やがて「直レ」の號令にて、不動の姿勢に復した。この時齋藤文相は、最敬禮の後八歩前進して、前面の臺に昇り、鞠躬如として

「謹みて 皇太子殿下の御降誕を奉祝し 寶祚の無窮を祈り奉ります。之より 御親閱を仰ぎ奉ります。」

と奏上して、御親閱を賜はらんことを願ひ奉り、臺を降つて後退して舊位置に復した。一同、最敬禮の號令によつて最敬禮を行つた。次に「前へ進メ」の號令が發せられて、受閱團體たる三個の大集團は軍樂隊の奏樂に歩調を合せて、一齊に各二十米前進し「全體止レ」の號令と共に停止した。此處に集つた數萬の小學校教員は身に國民教育の重責を負ひ、次代の國民を養成せんとして、常に我が國民道德の根本たる忠孝の道を訓へ、皇恩の宏大無邊なるを仰いでゐる、然れども平素帝都の地を踏むことすら容易にあり得ないのに、今眼のあたりに松の翠の色濃き宮城を拜し奉り、而も天顏に咫尺して、親しく御親閱を賜つたので萬感胸に溢れて光榮に感泣するのみであつた。この時、儀式係長は「君が代奉唱」と報じ、樂長は指揮臺に昇り、軍樂隊の奏樂に和して會衆一同が我が國歌を二回奉唱して、聖壽の無疆を祝し奉つたが、會衆にして感涙に咽んで始めには容易に聲が出なかつた者が少くなかつた。「君が代」の奉唱終ると共に、玉座の西方に侍立してゐた鈴木侍從長が階を昇つて陛下の御右の傍に進み、恭しく勅語書を捧呈した。儀式係長の最敬禮の號令によりて、一同最敬禮を行ひ、謹んで勅語を拜した。天皇陛下には玉音朗らかに

「國民道德ヲ振作シ以テ國運ノ隆昌ヲ致スハ其ノ淵源スル所實ニ小學教育ニ在リ事ニ其ノ局ニ當ルモノ夙夜奮勵努力セヨ」

と勅語を仰せ出されたのである。この玉音は廣き二重橋前の廣場に徹して、集團の最後列に在る者までも、はつきりと玉音を拜することが出来た。嗚呼何たる勿體ないことであらう。一天萬衆の至尊に咫尺し奉るさへ、教育者の終生浴し難き至榮である、然るを更に小學教育者の爲に勅語を賜はり、親しく玉音を拜することを得たのである。實に小學教育界未曾有の盛事であつて、聖旨の深遠にして皇恩の宏大なること恐懼感激の至りに堪へぬ所である。この感激とこの光榮とは、到底如何なる言葉を以てするも適當に之を言ひ表はすことが出来ない。會衆一同は只感涙に咽ぶのみであつた。この感激の涙を以て啼り泣く聲は、集團のあちらこちらより起つて、皆が双頬に涙を流してゐたのである。

陛下が勅語を御讀み終らせ給ふや、侍從長は進んで勅語書を拜受し、玉座の西に降つて立つたが、この時齋藤文相は、侍從長の前に進み、勅語書の傳達を受け捧持して後退し舊位置に復し、水野社會教育官に勅語書を授けて、之を捧持せしめた。

次に齋藤文相は前進して、臺に昇り恭しく左の奉答文を朗讀した。

「曩ニ 皇太子殿下御誕生アラセラレ竹ノ園生ノ彌榮ニ榮エサセラレ 皇統無窮ニシテ國礎倍々固ク 皇威八紘ニ光被スルヲ仰ギ奉リ九千萬ノ同胞欣躍拊舞ノ至ニ禁フルナシ殊ニ全國ノ小學教育ニ從事シ次代ノ國民ヲ養成スルノ任ニ在ル者幸ニ此ノ昭代ニ生レテ此ノ盛事ニ會ヒ歡喜極マル所ヲ知ラズ乃チ祥雲搖曳シ瑞氣洋溢セル 皇城ノ畔ニ集リ聲ヲ合セテ嵩呼シ恭シク 皇儲殿下ノ降誕慶祝ノ誠ヲ表シ奉リ更ニ國民精神ヲ作興シテ益々教育ニ涓埃ノ力ヲ致シ宏大ナル 聖恩ノ萬一ニ報イ奉ラムコトヲ期スルニ際シ畏クモ 天皇陛下ニハ親シク臨御シ給ヒ特ニ 御親閱アラセラレ又親シク優渥ナル 勅語ヲ賜フ寔ニ恐懼感激ノ至ニ勝ヘズ 夙ニ 陛下ガ教育ニ關シ深ク 軫念アラセラレ屢々 優詔ヲ降シ給ヒタルヲ拜シ奉リ又 列聖ノ文教ニ關スル 聖諭ヲ仰ギ奉リ夙夜或ハ悻ルアラムコトヲ是レ懼レシニ今 天顏ニ咫尺シ奉リ刺へ 聖勅ヲ拜シ奉リ恐悚措ク所ヲ知ラズ只感涙ノ滂沱タルアルノミ 教育者トシテ此ノ無上ノ 天恩ニ浴シ此ノ無比ノ至榮ヲ荷ヒ深遠ナル 聖慮ヲ拜察シ奉リテ責務ノ益々重キヲ思フコト切ナリ即チ永ク此ノ光榮ヲ心肝ニ刻シ身命ヲ獻ゲテ教育ノ爲ニ策進シテ 聖恩ノ萬分ノ一ニ報イ奉ラムコトヲ期ス 乏乏ノ文教ノ府ニ承ケ今日此ノ盛事ニ際會シ此ノ光榮ニ浴シ感激殊ニ深シ自今益々 聖旨ヲ奉體シ全國ノ小學教育者ト共ニ日夜淬勵以テ 職責ヲ竭サムコトヲ誓ヒ奉ル 誠惶誠恐謹テ奉答ス」

文相は奉答後舊位置に復したが、次に會衆一同は軍樂隊の奏樂に合せて 皇太子殿下御誕生奉祝歌を齊唱した。この時 皇儲殿下御誕生を慶祝し奉る教育者の喜びの聲が鳴り響いたのである。更に全員は齋藤文相の發聲に和して、あらん限りの聲を張り上げて、一齊に 天皇陛下の萬歳を三唱し奉つた。この時には、我等國民が 皇運の隆昌を祝し奉る喜びの情がその頂點に達した。やがて文部大臣が 御親閱式終了の旨を奏上し奉り一同最敬禮を行つた。陛下には畏くも、東、南、西の三方面に屯する會衆に對し、長き間御擧手の御答禮を賜はり、君が代の奏樂の裡に御機嫌麗はしく還御あらせられ、鹵簿は蕭々として二重橋を渡御あらせられた。時に午後二時五十分であつた。次いで「休メ」の號令があり、台座の各宮殿下には、御會釋を賜はりつゝ、自動車にて御退場あらせられ、引き続き法相・拓相・陸海軍大將その他の陪觀者も退場した。

この 御親閱式に於ては 陛下には、畏れ多くも二十分間の長い間、始終 玉座に御起立遊ばされ、御親閱を賜つたことは誠に恐れ多い極みであつた。

この頃から雨は降りしきつて來、寒さも加はつて來たので、齋藤文相は、會衆一同が困難するであらうから、直ちに精神作興大會を開くがよからんことであつたから、直ぐ大會の行事に移つた。各會衆は 御親閱の隊形のままに整列して居り、煙花が打上げられると共に「氣ヲ付ケ」の喇叭が吹奏された。是に於て全國小學校教員精神作興大會の會長たる下川東京市下谷高等小學校長が壇に昇

つて左の開會の辭を述べた。

「本日、全國二十五萬ノ小學校教員代表三萬六千人ノ者ガ相會シ、皇太子殿下ノ御誕生ヲ祝シ奉リ更ニ大イニ教育者ノ精神ヲ作興セントスルニ際シ、畏クモ 天皇陛下ノ 御臨幸ヲ仰ギ、御親閱ノ光榮ヲ賜リマシタノミナラズ、優渥ナル 勅語ヲ賜ヒ我等小學校教育者ノ責務ノ極メテ重大ナルコトヲ御諭シ遊バサレマシタ、實ニ 聖慮ノ深遠ナルヲ拜察シ奉リマシテ恐懼感激ノ至リニ耐ヘマセン、天皇陛下ガ、畏クモ 玉音朗カニ 勅語ヲ賜リマシタル時實ニ我等ノ感激ハ其ノ極ニ達シマシテ、三萬六千ノ會衆ハ言ヒ知レヌ有難サニ感涙ニ咽ンダノデアリマス、實ニ之ハ我等ガ終生志ル、コトノ出來ナイ感激デアリ、子々孫々ニ迄モ傳フベキ光榮デアリマス、此ノ至大ナル感激ノ中ニ於テ、我等ハ聖旨ヲ奉體シ身命ヲ國民教育ニ獻グルノ覺悟ヲ新ニシ、以テ君國ノ爲メニ盡サナケレバナリマセン、我國現下ノ情勢ハ、國際聯盟離脱ノ 詔書ニモ宣ハセ給ヒタル通り、非常ノ時艱ニ遭遇シテ居ルノデアリマシテ、正ニ舉國振張ノ秋デアリマス、此ノ重大ナル時局ニ際シ、神武天皇祭ノ佳辰ニ當リマシテ、我等三萬六千ノ全國小學校教員代表者ハ、茲ニ 宮城前ノ 聖域ニ、只ニ内地ノミナラズ、臺灣・朝鮮・樺太・關東州・南洋並ニ遠ク海外ヨリモ相集リマシテ、精進潔齋シテ、益々教育報國ノ志ヲ立テ教育者ノ覺悟ヲ固クセントスルハ誠ニ意義アルコトデアリマシテ、非常時ニ於ケル難局打開ノ要義ハ正ニ茲ニ存スルモノト信ジマス、就キマシテハ豫テ定メラレタル所ノ順序ニ從ヒ本大會ノ行事ヲ進行致シタイト存ジマス、以上ヲ以テ精神作興大會開會ノ御挨拶ト致シマス。」

續いて全員が軍樂隊の奏樂に和して、君が代を奉唱し、更に大會の總裁たる齋藤文相が、雨中に於て 教育勅語を捧讀し、又この日 天皇陛下より下賜あらせられたる 勅語を捧讀された。之を拜して全員は、又その感激を新にした。勅語の捧讀が終つた後、下川會長は壇に昇つて、「コレヨリ、全國小學校教員精神作興大會ノ宣言及び決議ノ案文ヲ朗讀致シマス。此ノ宣言及び決議ハ、大日本帝國ノ初等教育者ノ心血ノ湧リ、肺腑ヨリ湧キ出ヅル純潔ナル叫ビデアリマシテ、我等初等教育者ノ熱誠ノ結晶デアリマス。何卒清場ノ諸君ニ於カセラレマシテハ、天地神明ニ誓ヒ、毅然トシテ實行ヲ約束スルノ決意ヲ表示シ、大内山ニ迄モ徑スル一大拍手ヲ以テ御賛成アランコトヲ望ミマス。」ト述べて大會の宣言及び決議の案文を朗讀し、會衆は一齊に拍手して之を可決した。その宣言及び決議は左の如くである。

宣 言

皇紀二千五百九十四年 神武天皇祭ノ盛辰ニ方リ全國小學校教員代表者相會シ茲ニ精神作興大會ヲ開キ 宮城前ノ 聖域ニ參集シテ 皇太子殿下ノ御誕生ヲ奉祝シ 皇室ノ御繁榮極リナク國基ノ愈々固キヲ拜シテ一齊ニ歡呼ノ赤誠ヲ捧ケムトスルヤ畏クモ 天皇陛下親シク 臨御アラセラレ 御親閱ノ榮ヲ賜ヒ利ヘ優渥ナル 勅語ヲ賜ハリ小學校教育者ノ責務至大ナルコトヲ諭サセ給フ 聖旨宏遠寵榮至深ニシテ寔ニ恐懼感激ノ至ニ勝ヘス 謹ミテ惟ミルニ 皇祖天壤無窮ノ 神勅ヲ降シテ

天孫ヲ此ノ土ニ君臨セシメ給ヒシヨリ 列聖相承ケ萬世一系ノ 皇統連綿トシテ彌々榮エサセラレ國體ノ尊嚴ナルコト萬邦ニ比類ナク仁慈ヲ生民ヲ愛重セラレ義ハ是レ君臣ニシテ情ハ猶ホ父子ノコトク上下悠久三千年臣民世世忠誠ヲ竭シテ 天業ヲ翼贊シ奉リ國體ノ精華愈々發揮セラレテ國民精神ノ本源益々涵養セラレ 皇風ハ八紘ニ布キ 國光ハ六合ニ輝ク 吾等職ヲ小學校ニ奉シ事ニ國民教育ニ從ヒ敢テ駑駘ヲ策ツテ教化ヲ重ンシ給ヘル 列聖ノ 皇謨ニ率由シ日夜微力ノ及ハサラムコトヲ是レ恐レタリシニ復タ新ニ 聖勅ヲ賜ハリ 歡慮ノ深遠ナルヲ拜シ奉リテ感泣極マリナシ 今乃チ 御親閱ヲ終ハリ 風聲ヲ送リ奉レルニ際シテ吾等此ノ無限ノ感激ヲ長ヘニ力アラシメ此ノ無上ノ恩榮ヲ永ク光アラシメムカ爲メ齊シク天地神明ノ照鑑ヲ仰キ一同虔ミテ 聖旨ヲ奉體シ今後益々 國民道德ヲ振興シテ國運隆昌ノ基根ニ培沃シ夙夜電勵愈々教育報國ノ志ヲ固クシ確乎不拔ノ操守ヲ一貫シ名教ヲ以テ樂地トナシ身命ヲ獻ケテ君國ノ爲ニ盡瘁シ以テ 皇恩ノ萬一ニ報イ奉ラムコトヲ誓フ

一 吾等ハ協心戮力國民道德ノ爲ニ邁進シ愈々國民精神ヲ發揚シテ肇國ノ 宏謨ヲ國民教育ノ上ニ光輝アラシメムコトヲ期ス 一 吾等ハ至誠一貫職分ヲ樂ミ身ヲ以テ範ヲ示シ師表タルノ本分ヲ完ウセムコトヲ期ス 昭和九年四月三日 全國小學校教員精神作興大會

次いで齋藤文相は總裁として、左の訓辭を朗讀し、又内閣總理大臣として祝辭を朗讀せられた。 文部大臣訓辭 瑞祥正ニ溢ルル 宮城二重橋ノ畔ニ於テ茲ニ全國ノ小學校教育ニ從事スル者相會シ聲ヲ一ニシテ 皇太子殿下ノ御誕生ヲ奉祝シ且ツ國民精神ヲ作興シテ齊シク微涓ヲ教育ニ致サムトスルニ當リ畏クモ 天皇陛下ニハ特ニ 臨御アラセラレ 御親閱ヲ賜リ加之優渥ナル 勅語ヲ賜ヒテ小學校教育ノ重ンズベキ旨ヲ昭示シ給フ寔ニ恐懼感激ノ至ニ堪ヘズ吾等教育者トシテ 天顏ニ咫尺シ奉ルヲハ既ニ終生得難キノ光榮ナリ然ルヲ況ヤ吾等奉祝ノ聲ヲ親シク 天聽ニ達シ猶ホ且ツ近ク 玉音ヲ拜スルヲヤ國民教育ヲ重ンジサセ給フ 歡慮深遠ナルヲ拜シ奉リテハ眞ニ恐懼感激措ク所ヲ知ラズ 謹テ惟フニ

皇祖統ヲ垂レ 天孫國ヲ肇メ給ヒシヨリ 皇統連綿トシテ寶祚ノ隆ンナルコト天壤ト俱ニ窮リナク國體ノ尊嚴ナルコト萬邦ニ共ノ比ヲ見ズ國民舉ツテ世世其ノ忠誠ヲ致ス是レ我ガ國民教育ノ根本ニシテ 國運興隆ノ源泉亦實ニ此ニ存ス然ルニ今靜ニ現時ノ世態ニ察シ時運ノ趨向ニ顧ミルトキハ國體ノ本義ニ基キ益々我ガ國民精神ヲ作興シ國本ヲ培養シテ 皇運ヲ扶翼シ奉ルノ殊ニ急ナルヲ思フ 本日 御親閱ノ光榮ヲ辱シ且ツ優渥ナル 聖勅ヲ拜シ身國民教育ノ任ニ在ル者ノ責務益々重キヲ自覺シ身命ヲ獻ゲテ一意君國ニ盡スベキ旨ヲ既ニ 至尊ノ御前ニ於テ肅然トシテ誓ヒ奉レリ 予推サレテ全國小學校教員精神作興大會ニ總裁タリ 切ニ望ムラクハ此ニ集マレルト否トヲ問ハズ又

海ノ内外ヲ論ゼズ我ガ國民教育ニ從事スル者ガ協心戮力益々發奮策勵シテ健全ナル國民ヲ養成セムコトヲ期シ以テ 聖恩ノ萬分ノ一ニ報イ奉ランコトヲ

昭和九年四月三日

文部大臣 子爵 齋 藤 實

内閣總理大臣祝辭

曩ニ 皇太子殿下降誕アラセラル九千萬ノ若生歡喜措ク所ヲ知ラズ歡呼ノ聲四海ヲ壓ス而シテ我ガ小學教育ニ從事スル者獨リ國內ニ止ラズ遠ク海外ヨリモ來リ會シ茲ニ奉祝ノ赤誠ヲ披瀝シ奉リ國民精神ノ作興ヲ圖ルヤ畏クモ 天皇陛下 臨御アラセラレ 御親閱ヲ賜ヒ且ツ優渥ナル 勅語ヲ賜フ寔ニ恐懼感激ノ至ニ堪ヘズ惟フニ今日ノ光榮ハ實ニ此ニ集マレル者ノミナラズ又實ニ我ガ小學教育従事者ノ齊シク浴シタルノ至榮ナリ而モ此ノ如キハ實ニ小學教育ヲ重ンジサセ給フノ 聖慮ニ出ヅルモノト拜察シ奉リ當事者ノ責務一層重大ナルヲ感ゼザルベカラズ願ミレバ 明治天皇維新ノ當初學制ヲ頒布アラセ給ヒ邑ニ不學ノ家ナク家ニ不學ノ人ナカラシメムコトヲ宣示アラセ給ヒシヨリ小學教育ノ普及ニ伴ヒ國運ノ進展前古ニ比ナク國光宇内ニ輝クニ至レリ 大正天皇 明治大帝ノ御遺緒ヲ紹述アラセラレ更ニ大ニ教化ヲ布キ給フ

天皇陛下 列聖ノ御遺圖ヲ繼ガセラレ大ニ 皇謨ヲ恢弘アラセ給ヒ益々國民教育ノ振興ヲ獎勵シ給ヒ今又茲ニ 御親閱ヲ賜フト共ニ 優詔ヲ降シ給フ小學教育従事者ノ光榮實ニ極レリト謂フベシ關係者タルモノ深ク之ヲ心肝ニ銘シ 聖旨ヲ奉體シ粉骨碎身電勉共ノ職務ニ盡シ以テ 皇恩ノ萬分ノ一ニ報イ奉ラムコトヲ望ム一言所懷ヲ陳ベ聊カ以テ祝辭ニ代フ

昭和九年四月三日

内閣總理大臣 子爵 齋 藤 實

次いで會員は奏樂と共に教育歌を合唱した。

續いて總裁たる齋藤文相の發聲に和して、大日本帝國萬歳を三唱し、下川會長三度壇に登つて、「本大會豫定ノ行事ハ全部滞リナク茲ニ終了致シマシタ。本日ノ大會ニハ畏クモ

天皇陛下 御親臨アラセラレ 勅語ヲ賜ヒ、又各宮殿下ノ御台臨ヲ忝ウシマシタコトハ空前ノ盛儀デアリマシテ、吾等ノ終生忘ル、コト能ハザル光榮デアリマス。而シテ此ノ光榮ハ今日ノ參會者ノミナラズ、小學校教員全體ノ光榮デアリマシテ廣ク全日本ノ小學教育者ニ分タルベキモノデアリマス。今日以後本大會ニ於テ決定セル宣言決議ノ趣旨ニ基キ、全國教員ガ一身一體トナツテ其ノ天職ニ竭サレシコトヲ祈ツテ止ミマセン。最後ニ、本大會ノ開催ニ付キマシテハ、總理大臣閣下ヲ始メ宮内省文部省其ノ他關係各官廳ノ當局者ガ、終始多大ノ御援助ヲ與ヘラレ、本大會ヲシテ有終ノ美ヲ濟サシメラレタル御好意ニ對シ、會員一同ニ代リ深甚ノ謝意ヲ表シマス。コレヲ以テ閉會ノ御挨拶ト致シマス。」と閉會の辭を述べ、解散喇叭吹奏の後、煙花が打上げられ大國旗がふるされて、茲に 御親閱式と精神作興大會とは目出度く終了した。時に午後三時三十分であつた。而して各自秩序整然として退場した。

この日は雨さへも降つた天候の悪い日であつたけれども、全國より集まれる三萬五千餘の小學校教員代表者は終始緊張して大會に參會し、子々孫々に迄も傳ふべき無上の光榮に感謝して、今更に重大なる小學教育の責務に身を捧げて盡さんとするの覺悟を固くした。又この日の光榮は單に參加者のみの専らにすべき光榮ではなく、廣く小學校教員全體に齊しく頌たるべき光榮であることを深く感じたのであつた。

文部大臣の奉答文と訓辭とは、 御親閱を賜ひ、又 勅語を賜はつたことに對する教育者の感激の至情を殆ど遺憾なく述べてある。殊にこの日の齋藤文相の 勅語の捧讀や奉答文の朗讀はその態度が堂々として居り、その音聲も誠に力強く徹底し、古稀を超えたる老齡の人とも思ふことが出来ないほど力のあるものであつて、教育者の至情を吐露するに誠にふさわしいものであつた。齋藤文相は四月五日の官報にて文部省訓令第四號を以て 勅語の御下賜を全國一般に告知し、更に大會當日謹語を發表して、教育者の覺悟を促されて居る。之は同時に教育者一同の至情を代表して述べられて居るものと見ることが出来る。即ち左の通りである。

文部省訓令第四號

天皇陛下畏クモ本月三日全國小學校教員代表者ヲ 御親閱アラセラレ且ツ親シク左ノ 勅語ヲ下シ給ヘリ

國民道德ヲ振作シ以テ國運ノ隆昌ヲ致スハ其ノ淵源スル所實ニ小學教育ニ在リ事ニ其ノ局ニ當ルモノ 夙夜奮勵努力セヨ

本大臣ハ茲ニ優渥ナル 聖旨ヲ拜シテ感激措ク所ヲ知ラズ謹ミテ之ヲ全國一般ニ告知ス 恭ミテ以フニ

天皇陛下下風ニ教育ノ事ニ 軫念アラセラレ曩ニ 勅語ヲ下シテ教育ニ從事スル者ノ嚮フ所ヲ諭サセ給ヒ茲ニ重ネテ小學教育ノ重シズベキ所以ヲ昭示シ給フ 聖旨深遠洵ニ恐懼感激ノ至ニ勝ヘズ願フニ方今我邦内外ノ情勢ハ極メテ重大ニシテ國民タルモノ協心戮力國民精神ヲ作興シ國本ヲ培養シ以テ 皇

任ニ教育ニ在ル者特ニ意ヲ此ニ致シ夙夜淬礪益々國民道德ヲ涵養シテ教育ノ徹底ヲ圖リ堅實有爲ナル國民ヲ養成シテ國運ノ進展ニ裨補セムコトヲ期シ一意鞠躬盡瘁能ク其ノ責務ヲ全ウシ以テ 聖旨ニ副ヒ奉ラムコトヲ期スベシ

昭和九年四月五日

文部大臣 子爵 齋 藤 實

文部大臣謹語

茲ニ 神武天皇祭ノ佳辰ニ方リ全國小學校教員代表者ガ 宮城前ノ廣場ニ會同シ 皇太子殿下ノ御誕生ヲ奉祝申上ゲ兼ネテ小學校教員ノ精神作興ヲ期スルニ際シマシテ畏クモ 天皇陛下ニハ特ニ 行幸ヲ仰出サレ 御親閱ヲ賜ハリマシタコトハ全國小學教育ノ任ニ當ル者ニ取リマシテ眞ニ無上ノ光榮トスルトコロデアリマス。加之忝ケナクモ 勅語ヲ下シ賜ハリマシテ小學教育ガ國民道德ヲ振作シ以テ國運隆昌ヲ致ス淵源デアアル旨ヲ諭シ給ヒ局ニ在ル者ノ發奮努力スベキコトヲ示サセ給フタノデアリマス 陛下ガ 大御心ヲ教育ニ留メサセ給フノ深キハ寔ニ恐懼感激ニ堪ヘナイ所デアリマス念フニ

教育の歌

詞作 趙潔 井上時信

♩ = 104

あし たに は あし たに は やまとなでしこさ
まごまににははーんにはにおりたちておのがむき
ひきさくはなをおふしたてゆくわかつとめ

明治天皇ノ御時風ニ教育ノ制度ヲ定メサセラレ又國體ニ基キテ國民道徳ノ大本ヲ示サセ給ヒ 大正天皇亦屢々 聖訓ヲ垂レテ教育ノ振作ヲ圖ラセ給ツタノデアリマスガ 陛下ニオカセラレテハ更ニ 列聖ノ 洪謨ト 前皇二代ノ鴻緒トフ承ケサセラレ畏クモ養ニハ 聖勅ヲ下シタマハツテ師表タル者ノ 徳化ニ俟タセラレ今復小學教育ノ重ンズベキ旨ヲ示サセラレタノデアリマス
今ヤ我邦内外ノ實勢ニ稽ヘ益々國家觀念ヲ涵養シ國民道徳ヲ振作シ以テ深ク教育ノ實効ヲ收ムルニ勉メ以テ國運發展ノ根柢ヲ充實センコトヲ期セネバナラス秋デアリマス身教育ノ任ニ在ル者ハ勿論全國民ヲ擧ゲテ此ノ有難キ 聖慮ヲ奉體シ一致協力益々奮起緊張シテ堅實ナル國民ノ氣風ヲ興シ謹ンデ此ノ 聖旨ニ副ヒ奉ランコトヲ望ンデ止マヌ次第デアリマス

私も幸に、職を普通學務局長に奉じて、この 御親閱の光榮ある事務に參與するの榮を荷つて、上司及び同僚の指導と援助との下に、大過なくこの仕事に従ふことを得ましたことは、終生忘れることの出来ない光榮であり、衷心からの感謝であります。

大會終了と共に直ちに齋藤文相は參内して 御臨幸の御禮を申上げられ、又各宮邸へ伺候せられて台臨の御禮を申上げられた。翌四日の早朝には、全國聯合小學校教員會の關係者が、打ち揃うて明治神宮に參拜して、御神靈に對し奉りて精神作興大會が滞りなく終了し、無上の光榮に浴した事の御禮を申上げたのであるが、私は當日午前十時、その中の代表者數名と共に、宮内省に赴いて、湯淺宮相に面會して、宮相及び宮内當局が、この大會に關して終始寄せられたる甚大なる配慮を感謝し、且前日の大會に於て參會の小學校教員一同が無上の恩榮に感泣して居つたこと、玉音が集團の最後列に於ても拜することを得て、非常なる感激に打たれたことや、又この四日の早朝に明治神宮に參拜して 御神靈に御禮を奉告したこと等を申上げた所、宮相にはこの趣を機を得て 上聞にも達したいと思ふと述べられたので、一同は更に感激を禁ずることが出来なかつた。(九、四、八)

以上

信井 赴作詞
時潔 作曲
教育の歌

一、朝には、朝には

大和撫子
句はん庭に
おのがむきむき
生ふしたてゆく

さまさまに
おりたちて
咲く花を
わがつとめ

二、夕には、夕には

遠き神代に
尊き國を
世々の教の
研き磨かん

建てそめし
しのびつゝ
あとたづね
わが心

三、世の海の、世の海の

よしや濁らば
はぐくむ愛の
浄めすゝぎて
やがて済はん

をさなごを
眞清水に
人の世を
わが使命

四、道のべに、道のべに

咲くやひともと
久遠の生命
華と文化の
そこに生くべき

すみれ草
そこにあり
咲きほこれ
わが生命

各地方團體寫眞





景光の列參場式者表代縣森青・道海北



景光の列参場式者表代(一のそ) 縣城茨・縣島福・縣形山



景光の列参場式者表代縣形山・縣田秋・縣城宮・縣手岩



景光の列參場式者表代(一のそ縣馬群(二のそ)縣木柝



景光の列參場式者表代(一のそ)縣木柝(二のそ)縣城茨



景光の列參場式者表代(二のそ)縣玉埼



景光の列參場式者表代(一のそ)縣玉埼・(二のそ)縣馬群



景光の列參場式者表代縣葉千



景光の列參場式者表代(三のそ)縣玉埼



景光の列參場式者表代(二のそ)府京東



景光の列參場式者表代(一のそ)府京東



東京府代表者参列の光景 (その四)



東京府代表者参列の光景 (その三)



景光の列參場式者表代(一のそ)縣川奈神



景光の列參場式者表代(五のそ)府京東



景光の列参場式者表代縣梨山・縣井福・縣川石・縣山富(二のそ)縣濁新



景光の列参場式者表代(二のそ)縣川奈神(一のそ)縣濁新



景光の列參場式者表代縣阜岐



景光の列參場式者表代縣野長



景光の列参場式者表代縣賀滋・縣重三(二のそ)縣知愛



景光の列参場式者表代(一のそ)縣知愛・縣岡靜



景光の列參場式者表代縣山歌和・縣良奈・縣庫兵



景光の列參場式者表代府阪大・府都京



景光の列參場式者表代(一のそ)縣媛愛・縣川香・縣島德・縣口山・縣島廣



景光の列參場式者表代縣島廣・縣山岡・縣根島・縣取島



景光の列参場式者表代縣崎宮・縣分大・縣本熊・縣崎長



景光の列参場式者表代縣賀佐・縣岡福・縣知高・(二のそ)縣媛愛

書則規並書意趣



景光の列參場式者表代州東關・太樺・灣臺・鮮朝・縣繩沖・縣島兒鹿・縣崎宮・縣分大

皇太子繼宮明仁親王殿下ノ御誕辰ヲ奉祝センガ爲メ全國小學校教員ハ吉日ヲトシテ宮城前ニ集合シ赤子ノ葵心ヲ披瀝シテ皇室皇國ノ萬歳ヲ三唱シ次デ精神作興大會ヲ開催シテ教育家タル自覺ヲ喚起シ兼ネテ天地神明ニ誓ヒ協同一致以テ教育報國ノ志ヲ固メントス

我等ハ至誠一心聖旨ヲ奉體シテ日本精神ヲ顯揚シ忠孝禮讓ノ道ヲ明ニシ確乎不拔ノ志ヲ抱イテ清節不撓ノ風ヲ勵マサントスルモノナリ惟フニ國家ハ歷史的ニ發達スルニアラズバ以テ世界ノ大勢ニ應ジ堅實ノ進展ヲ見ルコト能ハザルベシ時代ハ方ニ更張ノ秋ニ在リ而シテ國歩ハ尙ホ未ダ艱難ノ域ヲ脱セズ國際關係内政ノ樞機思想問題等教育ノ力ヲ須ツテ解決スベキ根本的事項極メテ多ク日夕我等ノ奮起ヲ促シテ已マザルモノアリ我等ハ窮達ノ爲ニ其操ヲ改メズ榮辱ノ爲ニ其途ヲ易ヘズ儼然トシテ其ノ天職ヲ守リ毅然トシテ報國ノ志ヲ遂ゲザルヘカラズ

我等ハ國史ニ鑑ミ仰イデ悠久三千年萬邦無比ノ國體ヲ奉戴シ天壤無窮ノ神勅ニヨリ萬世一系ノ皇祚ヲ繼承シ給ヘル皇室ノ御繁榮ト皇國ノ隆昌トヲ祈念シテ已マズ昔人言フ 十年ノ計ハ木ヲ樹ルニ在リ百年ノ計ハ人ヲ樹ルニ在リト我等ハ實ニ百年ノ大計ヲ立ツベキ教職ニ在レバ内ニ省ミテ任重ク途遠キヲ覺ユ幸ニ全國ノ教員心ヲ同ウシ左提右挈道德ノ大綱ヲ持シ建國ノ本源ニ遡リ至誠ヲ以テ之ヲ一貫シ黽勉以テ教育ノ事ニ從ハバ聖世雨露ノ宏恩ニ涓滴ノ報ヲ致スコトヲ得ム是レ本大會ノ趣旨ヲ明ニシ大方ノ賛同ヲ冀フ所以ナリ

昭和九年一月

全國小學校教員精神作興大會規程

第一條 本大會ハ全國小學校教員精神作興大會ト稱シ 事務所ヲ文部省普通學務局ニ置ク

第二條 本大會ハ全國聯合小學校教員會之ヲ主催ス

第三條 本大會ハ全國小學校教員相會シ 皇太子殿下ノ御誕生ヲ奉祝シ聖旨ヲ奉體シテ日本精神ヲ顯揚シ天地神明ニ誓ツテ教育報國ノ覺悟ヲ宣明スルヲ目的トス

第四條 本大會ニ參加スル小學校教員數ハ左ノ標準ニヨルモノトス

- 一、道廳府縣管内各小學校ヨリ一名宛若シクハ小學校數ニ相當スル代表者 但シ東京府及其近縣ニアリテハ成ルベク多數參加スルコト
- 二、朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋群島等ノ代表者各若干名

第五條 本大會ニ次ノ役員ヲ置ク

- 總裁 一名 副總裁 二名 參與 若干名 會長 一名
- 副會長 二名 理事 若干名 委員 若干名

第六條 本大會役員ノ任務及選定法左ノ如シ

總裁ハ會務ヲ總攬スルモノトシ文部大臣ヲ推戴ス
副總裁ハ總裁ヲ輔佐スルモノトシ文部次官局長ニツキ總裁之ヲ推舉ス

參與ハ本大會ノ重要事項ニ參畫スルモノトシ文部政務次官參與官局長課長督學官地方長官東京市長及助役等ニツキ總裁之ヲ推舉ス
會長ハ會務ヲ統督スルモノトシ全國聯合小學校教員會々長之ニ任ス
副會長ハ會長ヲ輔佐スルモノトシ全國聯合小學校教員會副會長之ニ任ス

理事ハ會務ヲ掌理スルモノトシ文部省課長省員府縣學務部長東京府市學務關係者全國聯合小學校教員會役員ニツキ總裁之ヲ委囑ス
委員ハ大會ノ實務ニ從事スルモノトシ總裁之ヲ委囑ス

第七條 本大會ノ經費ハ寄附金補助金等ヲ以テ之ニ充ツ

全國小學校教員精神作興大會要項

第一 日時及場所

昭和九年四月三日午後二時三十分宮城二重橋前廣場(晴雨ニ拘ラズ實施)

第二 御親閱次第

一、整列

(一) 各團長ハ夫々集合場ニ於テ參加人員ノ調査ヲ終ラバ遲滞ナク之ヲ其ノ集合場擔當ノ團體係ニ報告シ報告ヲ受ケタル團體係ハ之ヲ受付係長ニ通報ス

(二) 受付係長ハ右ノ報告全部ヲ受ケレバ直チニ參加人員總數及豫定ノ諸準備進捗ノ旨團體係長ニ通報ス

(三) 團體係長ハ零時三十分迄ニ前項ノ人員ヲ文部大臣ニ報告ス

(四) 文部大臣ハ前項ノ報告ヲ受ケレバ其ノ旨行幸主務官ニ通報セシム

(五) 受閱團體ハ午後一時三十分迄ニ式前整列線ニ至リ整列ス

(六) 軍樂隊ハ受閱中央團體(第二集團)ノ前方十歩前ニ整列ス

(七) 副總裁、會長、副會長、參與ハ玉座前三十歩ノ位置ニ整列シ文部大臣ハ其ノ中央三歩前ニ位置ス

二、臨御

(一) 儀式係ハ鹵簿ノ先驅ニ重橋ニ達シタル時豫メ配置セル喇叭手ヲシテ「氣ヲ付ケ」ノ號音ヲ吹奏セシム 儀式係ハ二重橋前逕査立番所附近ニ位置シ信號旗ヲ以テ之ヲ合圖ス

(二) 軍樂隊ハ前項ノ號音終ルト同時ニ「君ケ代」一回奏樂 着御シ給フ時終ル

(三) 陪列陪觀ノ諸員並ニ受閱團體ハ其ノ位置ニ於テ前項ノ號音ニ從ヒ不動ノ姿勢ヲトル(軍人共ノ他制規ニ依リ脱帽セザル者ヲ除キ女子洋裝ノモノト雖モ全部脱帽シ御親閱終ル迄着帽セザルコト)

三、敬禮

(一) 天皇陛下玉座ニ着御アラセラレタル時「最敬禮」ノ號令ニ依リ全員同時ニ最敬禮又ハ舉手注目ノ敬禮ヲ行ヒ「直レ」ノ號令ニ依リ舊ニ復ス

(二) 各役員及係員ハ所定ノ位置ニ於テ最敬禮ヲ行フ

(三) 帶刀者ハ總テ抜刀セザルモノトス

(四) 團旗、班旗ノ旗手ハ最敬禮ヲ行フ場合總テ自體ノ傾斜ニ從ヒ之ヲ傾斜セシム

四、御親閱

(一) 文部大臣ハ約八歩前進シ最敬禮ヲ行ヒタル後全國小學校教員ヲ代表シ 皇太子殿下御降臨ヲ奉祝シ且御親閱ヲ仰ギ奉ル旨ヲ奏上シ舊位置ニ後退ス

(二) 「最敬禮」ノ號令ニ依リ全員同時ニ最敬禮ヲ行ヒ「直レ」ノ號令ニ依リ舊ニ復ス

(三) 儀式係長ハ「全員前へ進メ」ノ號令ヲ以テ受閱團體ノ前進ヲ命ズ儀式係ハ豫令ニ依リ信號旗ヲ上げ動令ニ依リ之ヲ急下ス 受閱團體ハ之ヲ合圖ニ前進ヲ開始ス、軍樂隊ハ受閱團體ト同時ニ前進ヲ開始シ先頭定位置ニ到ラバ足踏シツ、隊形ヲ整ヘ「全員止レ」ノ號令ト共ニ信號旗ノ合圖ニ依リ停止シ、軍樂隊ハ奏樂ヲ止ム

五、「君ケ代」奏唱

樂長ハ指揮臺ニ上リ軍樂隊ハ「君ケ代」ノ一節ヲ奏シ續イテ全員軍樂隊ノ奏樂ニ和シ「君ケ代」

二回奉唱ス

六、文部大臣奏答

七、皇太子殿下御誕生奉祝歌合唱
八、萬歲三唱

奉答終リテ文部大臣ハ指揮臺ニ上ル係員ハ擴聲器ニ依リ「文部大臣ノ發聲ニテ萬歲ヲ三唱スベキ旨」ヲ報ス

萬歲三唱ノ要領左ノ如シ

文部大臣「天皇陛下萬歲」 全員「萬歲」

文部大臣「萬歲」 全員「萬歲」

文部大臣「萬歲」 全員「萬歲」

九、文部大臣御親閱終了ノ旨ヲ奏上ス

二〇、敬禮

「最敬禮」ノ號令ニ依リ全員同時ニ最敬禮ヲ行ヒ「直レ」ノ號令ニ依リ舊ニ復ス

二一、還御

鹵簿御發進ト同時ニ軍樂隊ハ「君ケ代」二回奏ス、奏樂終ルヤ連絡者ノ通報ニ依リ煙火ヲ打揚グ

三、終了

鹵簿二重橋御渡御後「休メ」ノ號令ニ依リ離隊スルコトナク其ノ儘休憩ス

第三 全國小學校教員精神作興大會次第

一、整列

儀式係長ノ指揮ニ依リ儀式係員ハ煙火ヲ打揚ゲシメ喇叭手ヲシテ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ吹奏セシム

二、開會ノ辭(會長)

儀式係ハ擴聲器ニ依リ「精神作興大會ヲ開クベキ旨」ヲ報ス、會長ハ指揮臺ニ上リ開會ノ挨拶ヲナス

三、「君ケ代」奉唱

樂長ハ指揮臺ニ上リ軍樂隊ハ「君ケ代」ノ一節ヲ奏シ全員軍樂隊ノ奏樂ニ和シ二回奉唱ス

四、教育勅語奉讀(總裁)

總裁ハ指揮臺ニ上リ奉讀全員低頭シ奉讀終ルト同時ニ舊ニ復ス

五、宣言決議

六、訓辭(總裁)

七、祝辭(內閣總理大臣)

八、教育歌合唱

合唱團ハ軍樂隊ノ奏樂ニ和シ教育歌第一曲及第四曲ヲ合唱ス其ノ他ノ者ハ之ニ和ス

九、萬歲三唱(總裁ノ發聲ニ和ス)

要領左ノ如シ

總裁「大日本帝國萬歲」 全員「萬歲」

總裁「萬歲」 全員「萬歲」

總裁「萬歲」 全員「萬歲」

二〇、閉會ノ辭(會長)

閉會ノ辭終ルヤ係員ハ解散喇叭ヲ吹奏セシメ續イテ煙火ヲ打揚ゲシム

二一、解散

第四 參加者注意事項

一、御親閱拜受者ニ就テ

1、集會場及式場ニ於テハ絕對ニ團長其ノ他係員ノ指圖ニ從フコト

2、各員ハ最善ノ注意ヲ拂ヒテ行動シ嚴肅ヲ旨トスルコト

3、團長、班長ハ團及班ノ行動ニ關シ絕對ノ責任ヲ負フコト

二、服裝ニ就テ

1、參加者ノ服裝ハ左ノ通りトシ不敬ニ亘ラザルヤウ注意スルコト

(1) 男子 制服、「フロックコート」、「モーニングコート」又ハ背廣服トシ帽子ハ制帽、「シルクハット」、黒山高帽又ハ中折帽トシ靴ハ總テ黒靴トス

(2) 女子 制服又ハ質素ナル和裝、洋裝トシ、和裝ノ場合ハ袴ヲ用ヒ履物ハ黒靴又ハ草履トス

(但シ雨天ノ場合ハ此ノ限ニアラズ)

三、宿舍ニ就テ

1、各宿舍毎ニ二名ノ世話人ヲ選ビ宿泊者ノ管理、宿泊料徴收支拂並ニ各府縣本部及宿舍係トノ連絡ニ當ラシムルコト

2、宿泊者ハ宿舍世話人ノ指圖ニ從ヒ規律節制ヲ守リ教育者タルノ面目ヲ損セザルヤウ注意スルコト

3、御親閱、大會、講演會等ニ關シ指示ヲ要スル場合モアルベキニ付宿舍世話人ハ成ルベク宿舍ヲ離レザルコト

4、宿泊者宿舍ヲ離ルル場合ハ所屬宿舍世話人ノ承認ヲ經ルコト

5、其ノ他「宿舍ニ關シ參加者ニ對スル注意事項」ニ從ヒ遺憾無キヲ期スルコト

四、團體ノ集合ニ就テ

1、參加者ハ四月三日午前十時迄ニ夫々指定ノ集會場ニ參集スルコト

2、集會場ニハ各個ニ集合スルコト無ク成ルベク適當ニ團體ヲ編成シテ集合スルコト

3、晝食ハ集會場ニ於テ取ルコト晝食ヲ持參セザル者ハ集會場ニ設ケタル辨當屋ヲ利用スルコト

4、集會場出發前ニ於テ班長ハ其班ノ人員ヲ調査シ之ヲ其ノ所屬團長ニ報告シ團長ハ各班長ノ報告ヲ待チテ之ヲ當該集會場擔當ノ團體係ニ報告スルコト

5、各團長及班長ヲ經テ御親閱記念章ヲ交付スベキニ付直ニ之ヲ佩用スルコト

- 6、晝食後出發準備ノ爲各團長ハ團員ヲ一列横隊ニ整列セシメ各人ノ番號(番號ハ班毎ニセズ團ノ通シ番號トス此ノ番號ハ式場ニ整列スルトキ必要ニ付忘却セザル様注意シ置クコト)ヲ附シタル後入場退場及式場内ニ於ケル行動等ニ付注意ヲ與フルコト
- 7、各團ニ集合場ヨリ式場マデノ道案内其ノ他團長事務ノ補助ヲ爲サシムル爲團長補佐一名ヲ配屬ス、其ノ團長補佐ハ別ニ指名ス
- 8、集合場ヨリ式場マデハ四列縱隊ニテ行進スルコト
- 9、各團毎ニ指定ノ出發時刻マデニ出發準備ヲ完了シ團番號順ニ集合場ヲ出發スルコト
- 10、集合場ニ於テハ規律ヲ守リ濫リニ散策スルコトナク紙屑等ヲ散亂セザルヤウ注意スルコト
- 11、服装並ニ携帶品ハ團長及班長ニ於テ豫メ之ヲ點檢スルコト携帶品ハスベテ集合場ニ置キ若シ式場ニ携行ヲ要スルモノアル時ハ團長ノ承認ヲ經ルコト
- 12、各集合場ニハ救護設備アルニ付必要アラバ之ヲ利用スルコト

五、團體ノ入場ニ就テ

- 1、各團體ノ集合場出發時刻並式場到着ノ時刻ハ之ヲ嚴守スルコト
- 2、團長及當該集合場擔當ノ團體係ハ團體ヲ引率シテ指定ノ到着時刻マデニ受付場ニ到リ該團體員數ヲ申告シ受付係及團體係ノ指揮ニ依リ式前整列場ニ就クコト
- 3、式前整列場ニ至ラバ各團毎ニ一列縱隊(豫メ附シタル各人ノ番號順ニ依ル)ニ隊形ヲ變更シ班長ハ人員ノ點檢ヲ行フコト
- 4、編成ヲ終ラバ各人ハヨク前後左右ノ者ヲ面識シ團體以外ノ者ノ混入スルコトナカラシムルコト
- 5、式前整列場ニ於ケル隊ノ編成ハ一列ヲ第一集團ハ百人、第二集團ハ百二十人、第三集團ハ百三十人トシ其ノ端數ハ他ノ團ノ端數ト適宜組合ハスルコト、其ノ組合セ方ハ團體係ニ於テ指示ス
- 6、整列ニ付テハ豫メ設備セル標識(繩張)ニ依リ各人前後ノ間隔ハ兩手ヲ前ニ舉ゲ前ニ做ヒタル間隔ヲ保ツコト
- 7、隊列ヲ離ルルノ已ムヲ得ザル事故生ジタル時ハ隣ノ者ニ之ヲ告グ且ツ班長ノ許可ヲ受クルコトトシ無斷ニテ隊ヲ離ラザルコト
- 8、式場ニハ團體入場ノ外個人入場ヲ許サザルコト
- 9、各團長、班長ハ團體ノ管理ヲ嚴ニシ隊伍ヲ整ヘ荷モ團體外ノ者ノ混入ノ虞ナカラシムルハ勿論式場ヘノ往復ニ際シテハ努メテ一般ノ交通ヲ妨碍セザルコトニ注意スルコト

六、式場内ニ於ケル注意

- 1、入場後ハ絕對ニ出ヅルコトヲ禁ズ
- 2、式場内ニ於テハ紙屑等ヲ散亂スルガ如キコト無ク當ニ其ノ清潔ニ努ムルコト
- 3、式場内ニ於テハ成ルベク喫煙ヲ慎ミ午後一時半以後ハ禁煙ノコト
- 4、御親閱中ハ特ニ靜肅ニシ絕對ニ私語雜談セザルコト、後方部隊ハ一層コノ點ニ注意スルコト
- 5、外套又ハ雨具ヲ携行スルモノハ御親閱中ニ於テ左手ニ提グ雨天ノ場合ハ雨覆外套ノ着用ハ禁止無キモ頭巾ハ之ヲ脱スルコト
- 6、兩便其ノ他ノ諸用ハ午後一時半迄ニ済シ置クコト
- 7、式場ニ於ケル指圖ハ總テ儀式係ニ於テ擴聲器及信號旗ヲ以テ通達スベキニ付注意ノコト

七、君ケ代合唱及萬歲三唱ニ就テ

- 1、君ケ代ノ合唱ハ軍隊隊ノ奏樂ニ和スルコト
- 2、萬歲ノ三唱ハ一齊ナルヲ要ス之ガ爲總裁ノ動作ニ注意スルコト
- 3、萬歲三唱ノ時ハ兩手ヲ舉ゲ又ハ帽子、團旗、班旗等ヲ上グルコト

八、御親閱ノ際ノ隊形及行進ニ就テ

- 1、終始指揮者ノ命ニ依リ秩序整然タル行動ヲナスコト
- 2、式前整列場ヨリ前進シテ御親閱ヲ拜受スル場合ハヨク儀式係長ノ號令ニ注意シ嚴肅ナル歩調ニヨリ行進ヲ行ヒ荷モ不體裁ノコトナキヤウ特ニ注意スルコト
- 3、各團一齊ニ前進ヲ始メ所定ノ線ニ至ラバ各人ノ兩手ヲ前ニ舉ゲタル間隔ヲ保チテ停止シ直立不動ノ姿勢ヲ取ルコト
- 4、最敬禮ノ場合隊伍ニ動搖ヲ來ス虞レ無キヤウ注意スルコト

九、解散ニ就テ

- 1、解散ノ際ハ最モ混雜ヲ起シ易キヲ以テ特ニ戒心ヲ加ヘ喧嘩ヲ謹ミ萬遺算無キヲ期スルコト
- 2、式場退出ハ解散號音(煙火)ニ依リ各團四列縱隊ニ隊形ヲ變ヘ參入ノ場合ニ於ケル順序ニ從ヒ逐次參入道路ヲ經テ集合場ニ至リテ解散スルコト。

各團體集合場並式場受付等指定表

集合場	同上所在地	停留所	集合場ヨリ出發時刻	式場受付時刻
神田尋常小學校	神田區新領町二七	鍛冶町	11:00	11:30
小川尋常小學校	同 小川町三ノ六	駿河臺下	11:05	11:35
神龍尋常小學校	同 鎌倉河岸二	鎌倉河岸	11:10	11:40
今川尋常小學校	同 紺屋町二六	今川橋	11:15	11:45
一橋高等小學校	同 一橋通町二八	神保町	11:20	11:50
常野尋常小學校	日本橋區本石町四ノ二	本石町	11:25	11:55
京橋尋常小學校	京橋區本橋町一ノ一七	銀座二丁目	11:30	12:00
文海尋常小學校	同 本橋町八ノ一	歌聲後座前	11:35	12:05
櫻川尋常小學校	芝區新橋七丁目一	字田川町	11:40	12:10
京橋昭和尋常小學校	京橋區橫町一ノ三	八重洲橋	11:45	12:15

第一集團(八二三)人
和田倉門受付

泰町尋常小學校	同	銀座西五ノ四	千葉(三七四〇)	1,187人	一一、〇五	一一、一五	(第二集團) 一三、二〇人 馬場先門受付
物町尋常小學校	同	物町三丁目	神奈川(七九八二)	1,203人	一一、〇〇	一一、三〇	
物町高等小學校	同	物町一ノ一九	神奈川(八三三五)	1,949人	一一、〇五	一一、三五	
櫻田尋常小學校	同	芝區新橋三丁目一	新潟(八六、八七)	1,204人	一一、二〇	一一、四〇	
永田尋常小學校	同	芝區新橋三丁目一	石川(八八)	1,204人	一一、二〇	一一、四〇	
日比谷尋常小學校	同	芝區新橋三丁目一	富山(八九)	1,204人	一一、二〇	一一、四〇	
南橋尋常小學校	同	芝區新橋三丁目一	山梨(九〇)	1,204人	一一、二〇	一一、四〇	
水川尋常小學校	同	芝區新橋三丁目一	長野(九三)	1,204人	一一、二〇	一一、四〇	
酒粕尋常小學校	同	芝區新橋三丁目一	長野(九三)	1,204人	一一、二〇	一一、四〇	
愛宕高等小學校	同	芝區新橋三丁目一	群馬(九四)	1,204人	一一、二〇	一一、四〇	
愛宕尋常小學校	同	芝區新橋三丁目一	愛知(九七、九八)	1,204人	一一、二〇	一一、四〇	
西橋尋常小學校	同	芝區新橋三丁目一	滋賀(九九、一〇〇)	1,204人	一一、二〇	一一、四〇	
日本橋東尋常小學校	同	芝區新橋三丁目一	大阪(一〇一、一〇二)	1,204人	一一、二〇	一一、四〇	
日比谷公園廣場	同	芝區新橋三丁目一	東京(一〇三、一〇四、一〇五)	1,204人	一一、二〇	一一、四〇	
物町區	同	芝區新橋三丁目一	兵庫(一〇六、一〇七)	1,204人	一一、二〇	一一、四〇	
日比谷	同	芝區新橋三丁目一	和歌山(一〇八、一〇九)	1,204人	一一、二〇	一一、四〇	
東京(四一七八)	同	芝區新橋三丁目一	山口(一一〇、一一一)	1,204人	一一、二〇	一一、四〇	
10,000人	同	芝區新橋三丁目一	香川(一一二、一一三)	1,204人	一一、二〇	一一、四〇	
	同	芝區新橋三丁目一	高知(一一四、一一五)	1,204人	一一、二〇	一一、四〇	
	同	芝區新橋三丁目一	徳島(一一六、一一七)	1,204人	一一、二〇	一一、四〇	
	同	芝區新橋三丁目一	愛媛(一一八、一一九)	1,204人	一一、二〇	一一、四〇	
	同	芝區新橋三丁目一	長門(一二〇、一二一)	1,204人	一一、二〇	一一、四〇	
	同	芝區新橋三丁目一	熊本(一二二、一二三)	1,204人	一一、二〇	一一、四〇	
	同	芝區新橋三丁目一	大分(一二四、一二五)	1,204人	一一、二〇	一一、四〇	
	同	芝區新橋三丁目一	鹿児島(一二六、一二七)	1,204人	一一、二〇	一一、四〇	
	同	芝區新橋三丁目一	沖縄(一二八、一二九)	1,204人	一一、二〇	一一、四〇	
	同	芝區新橋三丁目一	在外指定學校	1,204人	一一、二〇	一一、四〇	
	同	芝區新橋三丁目一	東京(四一七八)	1,204人	一一、二〇	一一、四〇	

警務係員注意事項

一、集合 午前十時半迄ニ本部事務所ニ參集コト

二、配置 所定ノ配置圖別紙ノ如シ

整列前 午前十時半ヨリ午後一時半迄(受付終了迄)所定ノ場所ニ於テ其ノ任ニ當ルコト
 整列後 整列場周囲ノ各所定ノ場所ニ於テ其ノ任ニ當ルコト

一、連絡 係長、主任及各係員トノ連絡ヲナスコト

位置

整列前 三村(係長付) 關口(整列場附近) 二見(受付方面)
 整列後 三村(儀式係長附近) 關口(放送マイクホン附近)

一、事故發生ノ場合ニ於ケル處置

事故發生ノ場合ハ直チニ係長又ハ主任ニ報告シ得ル様適宜ノ方法ヲ採リテ其ノ指揮ヲ受クルト共ニ最寄警察官又ハ憲兵ニモ通知スルコト

一、服装 成ルベクモトニングコート着用ノコト

二、散會 大會終了後自由散會ノコト

團體係處務分擔

一、驛 詰

二、集合所ヘノ案内(集合所案内圖ヲ作ル)

△配當人員

東京驛 二〇(乗車口一〇、降車口一〇)

上野驛 一〇

新宿驛 一〇

新橋驛 八

品川驛 八

△配當者氏名(教員會側ニテ決定)

一、集合所詰

一、團、班等編成ノ世話

一、携帶品ノ保管

一、食事ノ斡旋

一、湯茶ノ接待

一、教育歌ノ練習

一、受付所マデノ道案内

一、諸配布物ノ配布

一、人員調査ノ上報告

△配當人員

集合所 二三箇所

一箇所ニ付 校長 二 女教員 二 其ノ校ノ職員

△配當者氏名(教員會側ニテ決定)

一、團長補佐

一、集合場ニ集マリ編成案内ニ就キ集合所詰係ト協力スルコト

一、受付所ヨリ整列マデノ案内ヲナスコト此ノ場合會場詰ノ係ト協力スルコト

一、式中團長ノ直後ニ控エ解散後モ集合所マデ案内スルコト

△配當人員

九〇團(二八團ノ内東京府三八團ハ不要ニ付一團ニ付一人ノコト)

△配當者氏名ハ教員會側ニテ決定ノコト

一、會場詰

一、本部詰ハ係長ヲ補佐シ各係員間ノ連絡及集合ニ就キ情報ノ蒐集ニ當ルコト

一、集團附ハ受付所ヨリ案内シテ所定ノ通り整列ヲナシムルコト

一、受付所詰ハ受付係ヨリ到着人員數及參集狀況ヲ係長ニ報告スルコト但シ第三集團ノ人員ニ就テハ集合所ニ充テラレタル學校ノ職員ノ整列スルヲ待ツテ報告スルコト

△本部詰 八

乙黒 進藤 山崎 三輪 川見 三田地 吉田 草場

△第一集團 九

高橋(受付) 田中 高橋 西川 大庭 田部井 北田 小野寺 吉野

△第二集團 一一

林(受付) 近藤 松尾 内山 川村 北浦 武重 石田 栗山 根本 五味

△第三集團 六

白井(受付) 池田 黒田 兒子 長岡 新井

備考 役員中集合所タル學校ノ職員ハ自校出發ノ最後ノ團ト共ニ入場シ各自所屬ノ第三集團ニ整列ス解散ノ場合ハ直ニ自校ニ歸ツテ共ノ任ニ就クモノトス他ノ役員ニシテ所定ノ席ナキモノハ本部ノ後方ニ整列ス

御親閱寫眞班名簿

東京朝日新聞社	山崎 眞一 井 幸一 田 芳太 藤 健
東京日々新聞社	立 健 佐 敏 飯 常 塚 三 河 道
日本電報通信社	春日 雄 田 映 野 映
松竹キネマ株式會社	今 貞 栗 貞 村 貞 林 貞 地 貞 澤 秀 柳 秀
フオックス社	レンハモ ンエイ 平 直 野 直
新聞聯合社	内 之 山 成 木 助 田 藏
バラマウント社	小 倉 市 藤 次 郎 谷 大 吉 波 夫 郎 瀬 洋 一 川 吉 郎

全國小學校教員精神作興大會記念講演會

第一 日時及會場

四月四日午後一時ヨリ同五時迄 日比谷公會堂、大隈講堂、日本青年館、青山會館ニ於テ之ヲ實施ス但シ日比谷公會堂ハ都合ニ依リ正午ヨリ午後四時迄トス

第二 講演會次第

一、日比谷公會堂	
(一) 開會ノ辭	文部次官 栗 屋 謙
(二) 講 演	文學博士 三 上 參 次
(三) 餘 興	
1、獨 唱	
2、學校舞踊	
3、童 謡	
4、映 畫	
(四) 閉會ノ辭	文部書記官 服 部 續
(五) 解 散	
二、大隈講堂	
(一) 開會ノ辭	文部省普通學務局長 武 部 欽 一
(二) 講 演	松 岡 洋 右
(三) 餘 興	
1、映 畫	
2、獨 唱	
3、萬 歲	
4、舞 踊	
5、童 謡	
(四) 閉會ノ辭	文部事務官 山 崎 犀 二
(五) 解 散	
三、日本青年館	
(一) 開會ノ辭	文部參與官 石 坂 豊 一
(二) 講 演	法學博士 穗 積 重 遠
(三) 餘 興	

(日比谷公會堂ニ於ケルニ同ジ)

- (四) 閉會ノ辭 文部書記官 高田 休 廣
- (五) 解 散
- 四、青山會館
- (一) 閉會ノ辭 文部政務次官 東 郷 實
- (二) 講 演 德 富 猪 一 郎
- (三) 餘 興 (大隈講堂ニ於ケルニ同ジ)
- (四) 閉會ノ辭 文部書記官 中 島 靈 四
- (五) 解 散

第三 出席者資格並二人員

- 一、出席者資格並範圍
 - 御親閱拜受者ニシテ御親閱記念章ヲ佩用セル者但シ東京府ノ者ヲ除ク
- 二、出席者ノ員數
 - (一) 各府縣共總人員ノ半數ヲ選定シ其ノ四分ノ一ヅ、ヲ前記四ヶ所ノ會場ニ指定シテ出席セシムルコト
 - (二) 沖繩縣、朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋廳及在外指定學校ニ就テハ全員日本青年館ノ會場ニ出席セシムルコト
 - (三) 各府縣ニ於テ各會場毎ニ出席代表者ヲ選定シ代表者ハ入場ノ際會場受付係ニ代表者ノ氏名ト出席員數ヲ報告スルコト

第四 注意事項

- 一、出席者ハ指定以外ノ會場ニ絕對ニ入場セザルコト
- 二、入場ハ開會時刻前十分迄トシ其ノ後ニ於テハ入場ヲ謝絶スルコトアルベシ
- 三、入場及退場ニ就テハ混雜ヲ來サザルヤウ注意スルコト
- 四、會場ニ於テハ司會者並ニ係員ノ指揮ニ從フコト

新宿御苑拜觀要領

第一日 時

四月四日 午前八時ヨリ午後四時マデ (東京府ヲ除ク)
 四月五日 午前九時ヨリ同十二時マデ 東京府

第二 拜觀者

各道府縣ヨリ拜觀希望申出ノ者全部

第三 服 裝

拜觀者ノ服裝ハ參加者注意事項第二項ニ依ルモノトス

第四 入場及退場

- 一、入場ノ際ハ必ず御親閱記念章ヲ佩用スルコト
- 二、正門(代々木驛又ハ信濃町驛下車)ヨリ入場シ甲門(新宿二丁目)ヨリ退場スルコト
- 三、各人ノ拜觀時間ハ約一時間ヲ限度トスルコト

第五 拜觀入場時刻

拜觀入場時刻ハ記念講演會出席者並拜觀上ノ都合ニ依リ左ノ時刻ノ範圍ニ於テ入場スルコト

記

各道府縣(東京府ヲ除ク)ハ拜觀者ヲ二班ニ分チ第一班ハ午前第二班ハ午後ニ於テ拜觀スルコト
 記念講演會ニ出席スル者ハ第一班ニ編入スルコト

沖繩縣、朝鮮、臺灣、關東州、樺太、南洋廳、在外指定學校ニアリテハ全員午前中ニ拜觀スルモノトス

第一班

- 午前八時ヨリ九時マデ
- 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、茨城、群馬、栃木
- 午前九時ヨリ十時マデ
- 埼玉、千葉、神奈川、山梨、新潟、富山、石川、福井
- 午前十時ヨリ十一時マデ
- 岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、島根、岡山、廣島、山口、徳島、香川
- 午前十一時ヨリ十一時三十分マデ
- 愛媛、高知、福岡、佐賀、長崎、熊本、宮崎、大分、鹿兒島、沖縄、朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋廳、在外指定學校

第二班

- 午前十一時三十分ヨリ午後零時三十分マデ
- 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、茨城、群馬、栃木
- 午後零時三十分ヨリ午後一時三十分マデ
- 埼玉、千葉、神奈川、山梨、新潟、富山、石川、福井
- 午後一時三十分ヨリ午後二時三十分マデ

岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川

午後二時三十分ヨリ午後三時三十分マデ

愛媛、高知、福岡、佐賀、長崎、熊本、宮崎、大分、鹿児島

第六 拜觀者心得

- 一、所定ノ拜觀入場時刻ヲ嚴守スルコト
- 二、拜觀中ハ係員ノ指圖ニ從ヒ不敬ニ互ラザルヤウ規律節制ヲ守ルコト
- 三、拜觀ノ際ハ濫リニ芝生等ニ入ラザルコト
- 四、御苑内ニ於テハ紙屑ヲ散亂シ又ハ樹木等ヲ損セザルヤウ注意スルコト

見學其ノ他

一、皇國史展覽會

(一) 會場 自三月二十日 每日 自午前九時 至四月二十日 至午後六時

(二) 會場 日本橋 高島屋

(三) 主催 文部省

(四) 入場料 無料

一、東京科學博物館

(一) 日時 四月四日 自午前九時 至午後四時

(二) 所在地 上野公園内

(三) 入場料 無料 (御親閱記念章佩用者ニ限ル)

一、國防大博覽會

(一) 會場 上野不忍池畔

(二) 入場料 金貳拾錢 (御親閱記念章佩用者ニ限ル)

一、伊豆大島見物

(一) 期間 自三月二十五日 至四月三十日

(二) 船賃 五割引 (御親閱記念章佩用者ニ限ル)

(三) 發着時刻 東京靈岸島發 毎日午後十時 大島着翌午前四時三十分

大島發 毎日午後三時 東京着午後九時

尙詳細ハ東京市京橋區越前堀一丁目三十番地東京灣汽船株式會社ニ就キ承合セラルベシ

一、森永製菓株式會社鶴見工場招待

(一) 場所 神奈川県横浜市鶴見區

(二) 日時 四月四日、五日、六日ノ三日間毎日午後一時ヨリ

(三) 申込方法 四月三日午後五時マデニ森永製菓株式會社學務部ニ電話ニテ申込ムコト

(電話番號 三田(4) 至一三二九〇)

(四) 道程 毎日午後一時マデニ省線鶴見驛前參集、送迎バスニテ工場マデ午後二時ヨリ工場見學、見學後接待、土産物贈呈、午後四時鶴見驛マデ見送ル

(五) 旅費電車賃等一切會社ニテ負擔ス

東京市内見學ノ場合ハ各集合所(日比谷公園集合所ヲ除ク)ニテ配付スベキ「大東京交通略圖」(東洋圖書株式會社寄贈)ニ依ルヲ便トス

全國小學教員代表者御親閱
全國小學教員精神興大會

役 員 名 簿



理事	滋賀縣學務部長	永井 浩
同	岐阜縣同	北里 善從
同	長野縣同	内藤 寛一
同	宮城縣同	清水 谷徹
同	福島縣同	末原 貫一郎
同	岩手縣同	湯本 二郎
同	青森縣同	矢野 兼三
同	山形縣同	山田 武雄
同	秋田縣同	相野 田彌平
同	福井縣同	並川 義隆
同	石川縣同	辻 利吉
同	富山縣同	遠山 信一郎
同	鳥取縣同	桑原 幹根
同	島根縣同	熊野 周二
同	岡山縣同	石井 錦樹
同	廣島縣同	鈴木 省吾
同	山口縣同	白仁 半次郎
同	和歌山縣同	高橋 一郎
同	德島縣同	三浦 直彦
同	香川縣同	中村 茂
同	愛媛縣同	瀬谷 薫
同	高知縣同	上村 清
同	福岡縣同	川島 傳三
同	大分縣同	堀 五之介
同	佐賀縣同	光田 信
同	熊本縣同	山本 秋廣

理事	宮崎縣學務部長	坂井 貞一
同	鹿兒島縣同	長船 克己
同	神戶縣同	堀池 英一
同	東京市教育局長	伊藤 昌庸
同	同教育局庶務課長	間宮 龍真
同	同教育局體育課長	加川 信憲
同	同教育局書記官	一番 久之丞
同	朝鮮總督府事務官	大野 謙一
同	關東廳同	田邊 秀雄
同	樺太廳內務部長	高島 久治郎
同	南洋廳書記官	岡部 軍治
同	東京府八王子市八王子高小	兒玉 魯一
同	淺草區富士寺	上沼 久之丞
同	小石川區關口臺町	坂口 繼輔
同	品川區品川	柴田 傳三郎
同	澁谷區常盤寺	今關 大造
同	澁谷區澁谷	山崎 菊次郎
同	廣島縣安藝郡矢野	金子 數登
同	同豊田郡忠海	久松 完一
同	同福山市南海高	高橋 政吉
同	同又三郡三津高	森保 良一
同	廣島市竹屋高	濱田 惣右衛門
同	吳市吳市東本道小	伊達 正一
同	埼玉縣北足立郡大宮高	初野 滿
同	埼玉縣入間郡所澤小	吉川 與一
同	福井縣越前郡小濱高	松見 半十郎

理事	京都府南桑田郡曾我部高	二階堂 光尚
同	同加佐郡西大浦村平高	坂根 廣身
同	京都市都文小	大島 傳次郎
同	山形縣山形市第一高	五十嵐 清次
同	愛知縣額田郡岩津高	鈴木 覺平
同	名古屋市依高	尼之内 孟夫
同	同正木小	丹羽 元三郎
同	奈良市第二小	北山 龜次郎
同	兵庫縣朝來郡生野高	長岡 直孝
同	神戸市山手高	澤田 武哉
同	仙臺市東二番町小	二階堂 清壽
同	朝鮮釜山第二小	石橋 謙吉
同	鹿兒島市鹿兒島高	兼子 鎮雄
同	博多野田郡野田小	石井 徳次郎
同	旭川市日野小	三井 専次郎
同	金澤市小將町小	伊藤 嘉秋
同	石川縣石川郡松任小	山田 善太郎
同	長崎縣下縣郡鶴鳴高	清野 貞
同	長崎市磨屋小	市川 庄次郎
同	静岡縣濱松市元城小	坂本 宗十郎
同	山口縣下關市下關高	岸本 貫一
同	山梨縣甲府市塚美高	林 香治
同	福島縣岩瀬郡須賀川第一高	渡邊 文彌
同	高知縣高知市第六小	柿内 市藏
同	德島縣德島市徳島高	多收 宇藏
同	岩手縣盛岡市城南小	三田地 勘次郎

理事	岩手縣博實郡花城高	三田 憲
同	同西野井郡一ノ瀬高	小野寺 喜美治
同	新潟縣新潟市白山小	石田 信次
同	岡山縣岡山市深藏高	妻井 一郎
同	群馬縣群馬郡澁川高	田部 井鹿藏
同	同佐波郡伊勢崎南高	萩原 彦吉
同	同多野郡藤岡高	高瀬 泰作
同	富山縣富山市安野屋小	松井 賢治
同	大坂市九條第二小	三橋 節
同	同日本橋小	吉田 傳治郎
同	大阪府泉北郡高石小學	奥野 高次
同	三重縣北牟婁郡尾鷲高等小	佐野 茂夫
同	横濱市元町小	金子 馨
同	大分縣大分市大分高	矢野 孝吉
同	宮城縣石巻小	伊藤 善右衛門
同	同鹽釜高	白石 慶治
同	同白石高	五十嵐 敬吉
同	東京市愛宕高	中澤 留
同	奈良縣生駒郡斑鳩高	栗山 倉次郎
同	物野縣物野高	梶川 健助
同	神田區西神田小	新井 道太郎
同	日本橋區日本橋高	進藤 頼正
同	京橋區京橋	八幡 得吉
同	芝區芝	谷水 銀吉
同	麻布區飯倉	倉澤 庄作
同	赤坂區水川	渡來 友治

理事	岩手縣博實郡花城高	三田 憲
同	同西野井郡一ノ瀬高	小野寺 喜美治
同	新潟縣新潟市白山小	石田 信次
同	岡山縣岡山市深藏高	妻井 一郎
同	群馬縣群馬郡澁川高	田部 井鹿藏
同	同佐波郡伊勢崎南高	萩原 彦吉
同	同多野郡藤岡高	高瀬 泰作
同	富山縣富山市安野屋小	松井 賢治
同	大坂市九條第二小	三橋 節
同	同日本橋小	吉田 傳治郎
同	大阪府泉北郡高石小學	奥野 高次
同	三重縣北牟婁郡尾鷲高等小	佐野 茂夫
同	横濱市元町小	金子 馨
同	大分縣大分市大分高	矢野 孝吉
同	宮城縣石巻小	伊藤 善右衛門
同	同鹽釜高	白石 慶治
同	同白石高	五十嵐 敬吉
同	東京市愛宕高	中澤 留
同	奈良縣生駒郡斑鳩高	栗山 倉次郎
同	物野縣物野高	梶川 健助
同	神田區西神田小	新井 道太郎
同	日本橋區日本橋高	進藤 頼正
同	京橋區京橋	八幡 得吉
同	芝區芝	谷水 銀吉
同	麻布區飯倉	倉澤 庄作
同	赤坂區水川	渡來 友治

理事	四谷區第七	關口 兼松
同	牛込區牛込高	橋本 熊太郎
同	本郷區千駄木	大久保 龍
同	本所區日通	安藤 謙助
同	深川區深川	五味 義武
同	日黒區菅刈	横森 英作
同	荏原區荏原	宮澤 清吾
同	大森區大森第一	佐藤 忠宗
同	蒲田區六郷	下條 清作
同	世田谷區駒澤	横溝 一清
同	澁谷區大久保	鈴木 三右衛門
同	中野區桃園第二	高師 良作
同	杉並區高井戸第二	山本 庄一郎
同	豊島區西巣鴨第二	目黒 勘吉
同	荒川區日暮里	鈴木 芳通
同	王子區王子	芥川 準一郎
同	足立區本木	芹田 喜市
同	板橋區板橋第二	田中 直道
同	向島區第二高橋	根本 文藏
同	城東區砂町	水谷 馨
同	葛飾區本木第二	多田 菊次郎
同	江戸川區小松川第一	山口 紋之助
同	牛込區鶴卷	小菅 吉藏
同	城東區第一大島	吉野 作藏
同	淺草區淺草	大西 文太
同	本郷區本郷	松下 專吉

理事	日本橋區常盤	齋藤 金造
同	下谷區西町	篠原 長一
同	本郷區本郷	福士 直次郎
同	本郷區千壽第三	中野 ハツ
同	足立區千壽第三	遠藤 キミ
同	外務書記官	田尻 愛義
同	千葉縣學務課長	渡邊 次郎
同	同視學官	内山 静一
同	同視學	小林 庄太郎
同	同視學	益田 舜之助
同	同視學	神代 健世
同	同視學	佐々木 良助
同	同視學	工藤 茂治
同	同視學	酒井 榮吉
同	同視學	檜崎 善一
同	同視學	増田 啓一郎
同	同視學	澤田 忠信
同	同視學	磯 幸次郎
同	同視學	岡島 義雄
同	同視學	永田 政俊
同	同視學	山村 潔
同	同視學	平野 薫
同	同視學	宮代 好介
同	同視學	花本 馨
同	同視學	岸本 壽治

委員 藤谷 聯三郎
 同小川 兼信
 同佐久間 齋藤 泰
 同今川 金網 佐市
 同神龍 山田 久之助
 同芳林 雨宮 節
 同日本橋區十思 笠原 清七
 同區東華 田中 小市
 同有馬 青木 吉郎
 同箱崎 三好 武彦
 同千代田 武見 五作
 同久松 田宮 千代壽
 同濱町 日野 清次郎
 同城東 田代 勝之助
 同阪本 南 音藏
 同日本橋女子高 吉原 學
 同京橋區明石 奥山 甚一郎
 同築地 川上 清
 同鐵砲洲 久保田 龜藏
 同奉明 篠井 和衛
 同京華 福島 正
 同京橋昭和 村野 喜十
 同明石 永島 巖
 同月島第二 田中 時三郎
 同文海 岩松 多吉
 同向島高 佐藤 富雄

委員 森田 嘉一郎
 同京橋區高島 服部 蒼
 同芝區新橋高 相島 龜三郎
 同御田小 荻原 美忠
 同南海 森山 保
 同白金 新田 作二
 同樓田 渡邊 年
 同市樓 草野 榮
 同市樓 高野 直一
 同芝 小野 忠太郎
 同西樓 池田 政太郎
 同臺町 石橋 龜一
 同三光 佐久間 善美
 同翠坂 稻葉 晴一
 同愛宕 佃田 利市
 同高輪 小栗山 猛男
 同神明 渡邊 英
 同赤羽 澁谷 次助
 同御田高 西川 幸次郎
 同麻布區(麻布區中) 佐藤 友助
 同青山 小田島 省三
 同三河臺 荒井 忠吉
 同本村 石上 格
 同昇 對馬 敬吾郎
 同東町 富井 宗雄
 同東町 朝倉 茂

委員 菅原市右衛門
 同赤坂區赤坂 三古谷 儀助
 同青山 石堀 善一郎
 同中之町 橋本 健太郎
 同青南 高島 信太郎
 同四谷區四谷第一 糸川 莊吉
 同四谷第二 山口 敏三郎
 同四谷第三 濱口 武平
 同四谷第四 井上 信善
 同四谷第五 伊藤 雄治
 同四谷第六 金成 龜次郎
 同牛込區赤城 西尾 鐵雄
 同愛日 宮川 菊芳
 同早稻田 橋谷 平伍
 同余丁町 金田 義種
 同津久戸 中村 靜三郎
 同江戸川 中村 清次郎
 同市谷 高橋 榮七
 同牛込 岡田 金次郎
 同山吹 倉岡 照
 同長延 久保田 嘉藤次
 同富久 日野 鶴吉
 同小石川區澁川 大内 耕治
 同明北 塚田 善四郎
 同黒田 池上 忠治
 同柳町 古市 富藏

委員 小石川區小日向町

委員 山本 松太郎
 同金富 大槻 貞一
 同御殿町 高木市左衛門
 同青柳 中溝 直吉
 同指ヶ谷 牧野 寅吉
 同大塚 遠藤 忠
 同覺蓮町 田中 萬吉
 同區窪町 渡邊 千代吉
 同林町 櫻井 安五郎
 同竹早 櫻井 辰治
 同小石川高 渡邊 福三郎
 同本郷區本郷高 佐野 信正
 同湯島 小倉 育之助
 同誠之 前田 捨松
 同駒本 天野 文吾
 同富士前 島田 廉
 同根津 助川 金次
 同道分 尾形 倉吉
 同眞砂 秋山 榮三郎
 同元町 諏訪 繁
 同汐見高 川井 立
 同昭和 北原忠左衛門
 同下谷區根岸 近藤 乾
 同忍岡 安藤 光熙
 同練辨 松谷 誠作
 同下谷 小谷田 誠二

委員 下谷區東區

委員 新井 敏太郎
 同入谷 高橋 千代吉
 同御徒町 高橋 嘉九平
 同谷中 半田 源之進
 同金會木 江見 晋
 同黒門 安西 國太郎
 同山伏町 尼關 桑二
 同區竹町 松本 十九二
 同臺東 中野 龍平
 同大正 井上 延太郎
 同上野 岡田 雅
 同本郷區精華 坂本 鼎三
 同柳北 増子 菊善
 同待乳山 深見 留吉
 同新堀 小林 茂
 同願井 古谷 繁藏
 同千東 近藤 富藏
 同石濱 久野 信二
 同小島 淺川 勝司
 同山谷堀 中山 國六
 同金龍 本田 小一
 同清島高 淺野 徳太郎
 同下徳 中村 恒作
 同田中 倉林 兵太郎
 同田中 新方 伊苗吉

委員 淺草區清洲

委員 小尾 清賢
 同今戸高 町田 幸平
 同本所 佐藤 忠
 同本所 長谷川 三治
 同明徳 金崎 武雄
 同中和 黒田 照清
 同江東 山田 涉
 同柳島 福光 作宗
 同茅場 伊藤 薫
 同二葉 久保内 安藏
 同芝場 青木 安三
 同菊川 關山 丑之助
 同本横 近藤 直太
 同外手 山崎 廣次
 同藥平 田島 晋次郎
 同錦糸 柴崎 義亮
 同小梅 山本 定壽
 同柳元 新井 滿之助
 同本所高等 前島 卯市
 同深川區明治 相澤 脩一
 同東川 三上 策郎
 同東陽 高橋 力
 同扇橋 山田 國之介
 同平久 川田 去次郎
 同臨海 風當 銚二郎
 同元加賀 宮本 彦三郎

矢口 豊保
甲木 信夫
福田 武司
宮澤 謙助
安藤 孝吉
○矢野 孝節
三橋 嘉秋
伊藤 善右衛門
伊藤 嘉秋
三田 憲吉
松田 慶治
白石 善太郎
山田 善太郎
山本 庄一郎
篠原 長一郎
福士 直次郎
中野 ハッ君
遠藤 君

記録係

橋本 綱太郎
○有原 福之助
乙黒 武雄
土田 義和
安積 昂太郎
大石 信一
山口 紋之助
澤田 武哉
三井 傳次郎
大久保 龍

一、撮影係

○中田 俊造
○藤川 龍雄
小平 不二雄
藪下 泰次
齋藤 宗武
常世 晋
○佐藤 忠宗
西岡 洋一
吉田 傳次郎
石井 徳次郎
高師 良策

一、新聞放送係

松尾 長造
○野尻 丈七
岡本 三郎
阿部 隆介
野村 秀三郎
○橋本 熊太郎
波邊 文彌
兼子 鎮雄
横森 英作

一、會計係

○朝比奈 策太郎
○荒井 良一
佐藤 憲三
菅原 廣治
安藤 正義
田中 銀市
君村 邦雄
荒木 信義
堀井 信裕
○進藤 穎正
二階堂 清壽
高瀬 泰作
芥川 準一郎

一、園藝係

柴沼 直
○乙黒 武雄
○進藤 小一郎
吉田 政一
草場 琢成
高橋 清一
林 文爾
白井 享一
田中 佐市
高橋 美登
川見 禎一
西川 一裕
大庭 唯一郎
近藤 友一
松尾 良雄
川内 精治

北浦 静彦
武重 富市
池田 傳次郎
黒田 寛次郎
三輪 盛次郎
○山崎 菊次郎
三田地 勘次郎
田部 井鹿藏
北出 龜次郎
小野寺 喜美治
石田 信次郎
栗山 倉次郎
根本 文藏
妻井 一孝
長岡 直孝
新井 道太郎
吉野 作藏
五味 義武

一、受付係

○中島 靈圓
○土屋 佐平治
四方田 三四郎
石坂 一造
小池 益荒
苦米 地一男
松下 寛一
鎌仲 百之助
大場 榮作
岡村 幸次郎
勝村 三郎
青木 泰次郎
大津 重治
高橋 清一郎
合田 龜太郎
○目黒 勘吉
坂本 宗十郎
大島 傳次郎
岸本 貫一
二階堂 光尙
芹田 喜一
坂根 廣身
田中 直造

一、警務係

○阿原 謙三
○三村 信彦
二見 勝四郎
玉川 文雄
菊川 武雄
福井 澄雄
猪狩 忠英
堤 真澄
○關口 兼肇
林 晋治
岡部 軍治
柿内 市藏
松見 半十郎
多田 菊次郎

一、教養係

○大西 永次郎
○田村 森次
小野寺 永藏
三澤 世治
川田 美英
吉田 清一郎
荷見 秋次郎
高橋 喜一郎
海野 信太郎
橋本 道胤
○森木 長博
○谷野 銀三
初野 政満
高橋 政吉
金子 數一
森保 良一
會澤 庄一
久松 完一

全國小學校教員代表者御親閱
全國小學校教員精神興大會

參 加 者 名 簿



東 京 中加字中野根岡高大岩橋鈴上安横佐西黒菅林長篠 小河今大田黒山清内本大石小松倉佐沖藤井鈴松齋島米砂松宮遠岩田表望郷市濱島藤宮間枝小前

府 福中田竹根山緒金新齊一神須小原古小藤大太前山神岡前加平峰佐黒高守石蔵九津岸波増藤石中高佐谷福伸石大集重庄内平白中向山高仁今石西蔵佐

深松中田山淺森松羽中坂渡小石藤藤大伊小北清松高遠石清不加加船丹島中西藤小松木阿海原瓜當小森栗八古槍幹安久淺岡野澤岡香稻伸玉石依永武

上中山高井岩水上三橋德今上和上毛徳河鶴村坂湯矢田甲佐丸 徳小本佐小江江龍江大石刈石込伊大宮平平梅清小波加渡鈴下高稻植山吉宿本指

横藤大安久松山植深戸寺岡福水小川本藤茅相谷三中山北川加加木横守小染小山清小津柳大瀧丹湯都岡内佐三上堀山森永立磯横福西鈴白中植熊小小濱

齋島土城飯川石小土小磯落杉露立後落牛鈴金栗伊永藤藤大藤岡川保田眞高池松田井藍注白小山加谷小竹今吉赤竹松三根横山戸松岩遠八福石中高伊

須杉安磨猪彌小杉鶴九大高石後住石字石黒栗松長日花横淺前野猪柏鈴山楠秋蒲菊林菊田山植尾岡小真字圓鬼今青平水豊豊伊由岩龜大田鈴沖東井日

松有安角近原片鈴阿井小智後乙越士大川河國田徳大豊金清小鈴宮山野伊衣伊山角佐小渡松小吉久細鈴萩宇飯今松前山里草福松前遠平藤江柳神吉藤大

横石財飯大重松田倉岸衣松中龜楠中古梅戸安佐金山鳥野丸福杉伊濱宮大今佐佐渡武宮雨小小高金眞須相安米古村大伊星彼安横大小東名新辻波梅古

青小小河持波坂刈土内竹鴨花氏最齊神田齊吉藤津松武波森市銷宮坂池小小森中山小波横栗瀬酒鈴田宮小稻生鈴志金小高川松太川關長田須奈關米渡大

豊武石柳浦松栗長齊眞赤中綿梅小杉高早根市角白山岩岡江羽富秋森山藤酒吉平下入女池都武鈴濱中小加川菅萬矢不高今高吉大須金田三兒武鈴佐

日渡山小宮野吉館龍武小石中石加曾小栗田岩稻田佐山中岩岡繩城渡竹牧阿真兵石福菅上木小菅典彰藤星佐川清波小熊山鈴大松小芥小荻守堀櫻富楠上

大平藤堀川伊玉吉前田中高神原梅坂中森三佐伊中大細上日加山龍唯名天屋小中松佐御加鈴砂水字岡鈴久徳長隈岩佐九清松岩宮曾河熊瀬高宮渡湯松

兼頼鈴山西上宮酒福補岩菅石井吉岡龜片阿淺落下加岩大加鈴米和山近市齊楠中青多若晴林越藤近近小本宮金中佐森朝平堀戸安白高炭田坪遠橋野渡倉

鯉濱乳石折原長青吉衛小... 島田井茂島谷山村藤田...

上楠望廣山森川本金角吉伊... 原野如田岡名總井原村藤...

根富吉藤長大野笹臺向井根... 岸永野澤川山正清喜七義...

中增池田中 帖村吉津佐中... 島田中村佐磯田木清田...

小芳志佐宮山久石日原山村... 川賀多崎岡保川野田井川...

柳安伊高神岩橫尾鯉稻長田... 澤川藤橋代本山崎登葉村...

遠安原永大須片富石常藤東... 山戸島友田野川井盤村田...

菅森菅田高河角松杉行菅小... 原時原中富橋野田村長方...

岡庄幸中井加谷小加野花並... 官子島東藤口杉太口繪河...

中平小村小半相牛廣小助山... 村川杉越口谷川坂田泉川...

白小井中荻布川新岸森後山... 木山野野庭島谷本義田藤...

堀伊中興石井吉住江林鈴長... 尾澤村田丸上永中園木藤...

三前鈴鶴新早大大中平長代... 島田木田垣川瀧澤坂濱田...

押佐名鈴藤加塚大家近竹三日下山齋永澤山小森關山關大前和中植中井永鈴三桑古石加小湯大松杉片細長染火小今高萩長谷加小内新渡宮小思前市望
 川久倉木崎藤本里入藤下戸下島田藤塚山下林田本根塚川宇城山木川岡木村屋津藤林本久澤岡井井沼室宮橋澤川藤川山各邊島野田富宮月
 則間愛ス瑞けヤ三見秀二知新憲左泰芳愛一ヤキ武活魚朝永大藤新正三平光美志章達保太武力二泰五久文毅久信た代ヒタタ浦武寺菊文
 義登吉ミ江いナ武彦一郎賢行作明右藏孝司枝ツみみ雄夫一俊茂郎三也次男治雄子古子也實一孝郎雄藏郎寛郎治雄一長良以静子ナカま人男銀雄正西

渡田島市飯大安加佐佐淺若榎小日神足松古雪藤力及興高岩椎矢菊橫高高山稻池久鈴三安朝外永水佐橫飯佐藤五木谷神藤小山白田高佐小占中限關邊
 邊彌袋倉田木藤藤藤藤利本川黒子立崎山岡塚丸川良橋波名加油山橋久木田見内保木谷永比川川上藤田島藤塚十内木子崎尼口田中木々池部山澤
 文三武清龍義一八喜昌助敏初ヨミスカ吉之太善春道拾利ち都代マキ熊清安織比奈正五芳健重庚桂之七敏幸雪諒代め信忠鶴鐵武者榮直
 人郎繁作豊夫保夫正清徹郎造雄吉雄枝シ子葉愛イネ治助郎夫二九六治よ留子ツノ男好成雄治郎房二治子助助郎明枝江子子子じ次郎一傳惠夫三作精

田川菊三板藤宮三二加大長稻石津吉矢伊有長根小山宮鈴宮杉泰栗一川木中天津船大同小田白鳥杉島福海河都久木小征中茂古深酒穂保黒江九後芳大佐藤
 中崎地枝橋野崎島親藤貫谷葉川鳥野島藤吉本林中木木崎田原野村村山木曳山崎如尾田山津田老合榮木村原欠村半川澤井原坂澤木茂藤木庭々田
 キキキ教訴一安政銀一左伊信新秀み武正正富一き静琴登喜ヨ利陸大新市キ祖晴久タイあはと義佐藤太
 の技一彦靖秀雄郎郎郎子久七時男ね明雪清雄文祝之吉郎仲よ枝子以久シ輔郎庚平司忠敏茂登一吉貢次憲要郎ク子子子かホいつみ原一三雄

内山高鈴二齋猪中望藤都稻若田高山片渡川新山大小下熊會鈴尖松牧森鈴佐長谷伏佐石中天前宗諸内松久三宮聖齋安中井波滿中八溝木鈴大神山根
 山寺野谷木見藤儀田月原築見林井橋崎岡邊儀谷内代橋田井美木戸尼田治木藤川治木藤井村野原田貫山木保日野藤藤島上邊留里村口口木櫻英木崎キ
 イ喜國好千與武英一重芳俊正泰七千キ正快俊倫登博之トや雪静二彦寅政敏長將義勇嘉保う綾キセて壽清重英女新惟有一英
 ナ七豊平勝代作松一進二高正之志不尙郎代子一雄夫司次人加シ五枝子鏡郎三吉郎一治島哉郎彦雄郎熊助ぬめ羽ヨツい江隆吉雄雄吉實輔正次郎雄堪臣

長小岡井藤堀内川福田佐花横山江西新松久倉伊高關有飯鈴木岡桐三北菅高水山大富秋關磯丸市石葛高中菊吹池伊岩栗關西關鹿蔭長扇清和田菊鈴
 谷林ノ野山田畑田邊藤川崎口井崎田藤野宇吉田木田山谷森郷家知上崎菊野川ハ美タ國喜壽重賢要博文富政邦保忠嘉正登くッせ春と興
 川鐵右ア春芳一辰大廣弘三忠茂はつ又輝義吉一敬國正光四美留梅尾健次川ナ美タ國喜壽重賢要博文富政邦保忠嘉正登くッせ春と興
 茂男鳥イ夫男郎二吉世一郎一郎吉るね三正敬一夫郎之雄信雄雄郎孝藏吉榮二郎ツ子郎マ子久代作治助洋要明郎吉見介夫晴文左の鈴イ子ん枝め志

三中間齋藤武中室中千藤大伊長南一連吹齊濱橋石根井山大小武下田八藤遠田宮川松室設立林三廣黒中小山藤藤青川三馬田佐谷古堀伊中水林大興根本
 谷道口藤田田堀井根葉木橋藤岡里野田野藤木川岸一口久野中窪平藤口崎名村根榮谷井瀬田山松本塚田柳崎枝揚中藤村野内藤島野木村岸村
 フ幸君トハ忠良富武左松確守義忠榮重八ト尙太武勇金慧榮秀哲倉正東壽文三千あゆ精長卓時幹豐木宗駿順キる信安尾京三之
 子ク子代ミウナ治介治治門義哉逸純衛苗子子シ武郎義松尖松エネ傳一實夫司夫一助平郎代さハ一久彌治一藏農市政三一ク子明雄實操光司郎助保郎

井小牛吉齋保石士小工瀧高柴土山新高木太飯大青大古車岡上橋高塚竹辻河倉水等佐矢柳島柿青佐加若宮
 田林田田藤田田志林藤藤松田手口堀田下田塚井山塚矢田田野木崎田野内持室野鳥川田村木藤藤林澤榮田田山田澤東木中石賀藤藤木仁子
 熊四八信桂實田旭敏義重義慶益保卓遠識倉郎重忠幸信金慧德茂元通周壽一清三意佐四榮和勤女
 吉梓郎郎一二文曉美雄雄行男福治貞郎茂雄吉二擴治一雄吾智男夫志憲一壽次藏郎彦近郎藏郎雄滿勇純治久
 設六角杉藤唐伊福鈴田大芳内齋鈴古多
 榮田田山田澤東木中石賀藤藤木仁子
 フスむ誠二北之光義榮一夫三
 チマめ雄郎洋助見正亞郎郎郎郎郎

大島屋石吉池岩豊望木金松河島中平吉柳大池佐中田市島豊山合井古小立塚細小井川奥高柴關上木津田長高内菅宮岩戸石本茅吉座畔益山佐上千岩
 島合井川澤本福月村澤原田島野田田石谷藤谷口川海崎泉口山上山藤石田谷池名野橋橋原田梨久口尾坂田野内田塚井橋根田間柳水田々野良田
 三無保タハ照一ハエミ敏クニ義政慶國芳良太太憲次正得之良重ふ利重五官井季國セセ文元橋直次キナコ木福茂銀
 三郎一三カつ子悦ウイ良を子香ニ標則次次区藏不助直見郎三郎之郎正助郎郎章みう光雄寛雄賢朗治通寛牛彦松保イン雄喜郎吉郎ヨよえ幸ウ盤夫樹二

高士黒島高市上伊小横水渡吉吉竹佐淺吉鈴結中庄丹矢鈴田近上藏神笹淺大島小野金佐山加藤松小宇森吉五佐峰平佐吉伊吉中菅吉金大二吉久齋小
 信屋江海梨田田藤池山越邊川住作次杉並區之内チ政マよ鹿末庄守之敏保末義立三乙貞貞公正静嘉吉ク正行ッ信峰富喜ヨ三榮本陽政守秀清正鶴
 正富惠富爲正之謙二次成良シヤウウツツ夫喜吉雄助雄富武保夫身好松子吉代区進子久江代安男郷ヲ三保松泰久貞ジ枝與喜兒助一雄雄男峻漢吉

良野安島戸小近岡高關中加恩金海岡土吉高石大大神中柏松沼藤山藤杉吉胸宇望大小加木小岡落桐松山内佐木土早小青平藤高寺鈴中川若秋中舟戸立秋
 水田西津沼笠藤木橋村藤田城老木士野松黒久保山山川井田井澤澤村津月崎西藤林田合谷島崎田藤會方坂澤木塚井田家木根上林諸村越泉山久
 一五車輛た忠重重良清珍重綱順キオトし一一郎介雄徳郎苗一次義壽子惠喜擇代雄雄也吉正正郎雄治吉治耕マ江エシげ元三治雄郎水智郎郎
 行郎司子り雄俊藏三康俊松淳綱治昇一ケル

石三相字錦淺浦高小小安柏木山遠嶽九山橋花井多神淺伊池楠中土坂山川竹西徳小金鶴堀小南鈴小佐内花探杉山鈴宮田石丸根岩橋佐久響寺何窪金矢青
 見科田都織仙邊木谷川川梨木藤野鬼岸野田徳賀山沼藤谷木村持口崎口内山永西子喜内池尾藤藤田本木木川村川山木村内々保尾西田柳
 兼忠勝尙太隆勇セキ千公泰四忠忠水綾元優ふ利勝信傳徳幸忠精代太喜昌三昌ち貞猛まき吉干之金米喜義隆金太直ヶ願之邦達利政
 作雄雄夫郎允次香キ子代守能三郎隆松世郎香子守泰男八次保義吉郎平藏一郎親郎平よ古雄へを子城助一藏十忠一吾郎次博操イ健一助孝茂夫夫義

茂幸田秋關眞橋長池宮志鈴志二田鯉今菊中近吉高廣小峰森中町吉大松池矢松古曾橋高石山廣木藤千松原山長阿三小田川中小星安皆内星岡羽大歌浦
 邊口津口柳口都ス實水水瓶中沼藤井山藤村井立川田島田浦越本フ實川我村橋澤良濃橋邊葉村本岡部ツ林邊留信文日大倫定賀松喜ッ廣
 家ッ照一富孝太久エ清市利宗保ッて知康隆光三芳弘芳義幸ッ隆直松次キ保重常茂豊一夏て正茂次
 長ニ子郎生信尙郎子ノ映吾郎雄市茂子ギイ夫作造三太雄瓦良讓男徳實三コ利清次郎壽信順江仲男清昌賞郎江い雄平郎記治雄記作英任七一雄美リ海

富加田平祐戸藤深高小岩關大大芳橫加後池佐佐木半坂小相關鶴木古岡石吉武星渡並稻村木中長土海野川乙飯千城石椿伊山小談箱見淺西龍小長堀
 田藤中田植板原澤久宮崎口塚塚賀手賀藤藤藤ノ谷野坂澤根制村川田崎川川野遠木森豐島區瀬島山池土老口津橋探葉戸川眞藤田川邊崎日野村野野川
 正壽武利宗兵征太太四キ金キ信重徳ノセ恒歸て一武ア千彰恒三三茂三三次次仙仙
 夫雄區數正壽樹武助郎郎郎つク矢江コ治光治シツ次郎う郎夫ク里次造郎信郎郎助藏
 線ルみ三み一男順之賞愛夫芳郎見カ子ト秋憲誠コ澄郎作恒

關特大吉小和田猪坂三鈴本河花羽八小原西飯三彌菊水小大深遠深岩徳木岩渡坂石片石金安鋸田白日青小關若葛天金鈴宮田仲井藤藤橫山田五山豊倉岡
 根沼木岡島知崎本村木橋内島富木澤永山島村田地側林橋山藤澤元崎戸田邊木塚峰井見田園邊井高山林口松岡津子木崎中田川原山田中風本田野
 次安恒富まい京一徳三重三治富吉幸誠武テ甚邦寅芳太義鏡郎郎雄一郎次平勝三巖水雄郎治雄路一治之保進イ代シロ見なを之男夫郎
 茂郎繁男藏子敏順ほ醇武二慧録郎雄作郎育藏郎枝一久雄イ吾子一雄嶋郎郎雄一郎次平勝三巖水雄郎治雄路一治之保進イ代シロ見なを之男夫郎

渡石鈴家佐三蘆大貝山小大高迫中田龜近古大宇石白教安高戸藤大伊屋小鈴岡岸山峰須永佐川諫片賣稻小益石宇伊岩海市宇山安春田北皆中吉鈴栗宮

原加渡野中佐右鈴牛鈴我小須望木小林種小森榮齋蒲熊福吉中石鈴九月赤 石鐘西石瀧我森斐定木海壽長石池深高横鈴山茶川宮村矢根藤中山小大佐

杉人志秋米山伊櫻増渡松河鴻山結早藤水中心水草向松高鈴池河田中高佐佐渡榮村鯉伊竹高飯池大新日林石渡浦稻石須井橋早飯西須下渡太鈴小大沼

山牛北松井小安伴大本遠木石江本江籠山大小坂石丸淺磯針小橋片望花峰清中井稻川鳥板漆吉佐小吉福刀吉小樋小染草密鈴谷鈴伊片湯仲手松酒一石馬

寒中佐宇鈴西木加石吉野伊鈴鳥三鈴辻金遠杉原増加遠小高星丸鶴柳根柿小坂板山岡渡三齋武木阿谷水原内樺山飯小石玉古高橋大關深河齊吉名稻川菊

木遠木吉矢常池池三小鳥岡吉古松石鈴長原大 小箱田梅橋船花山鏡石田川秋高井橋林宇伊山塚村中羽梅小中小波天武野飯欠加植安深窪本大字彌支

中高鶴原新近飯林真佐沼坂中田湯上本植稻石池地小月千古中中鶴鈴小湖窪江米村後内大坂相小安小小可川山大白湯向渡德峰平六多淺佐小加美佐

村野見子垣藤島 原野野木村 渡野野木田田 湯山岡羽岡山野木和東田澤島山藤藤高槻巻馬瓶藤林川兒原 崎野井後後遠橋川泉 角宮利野藤島野藤

俊夫享謙一保郎壽二治壽次一郎雄吉江めの子江るセシ鐵節郎一風之厚馬夫清藤子ル恵子子代介子賞男明善留志盛保壽八作映子久夫可西司次保壽

松鈴小立日櫻齋齋海林板兒栗寺若關弘松今佐木飯中伊比高大白村飯山飯佐渡浦鈴馬服林吉村福千鐘安美吉吉加吉笠小池山伊笠牧池三菊南加田住橋

川中今吉村一吉木藤宮石藤黒糸吉雪橋栗山平九細朝榮遠石松宇市長須根奥高藤長谷山川談鈴大谷渡佐吉中赤和小加湯葉宇稻小中前加關金鈴柿三久鈴

鈴野鈴小鈴推濱千芳垣若飯下武堤池藤坂菅添長岩坂小藤小杉細福河古山坂長山高塚安末伊笠齋藤高岡佐平武牧山小森荒小丸安羽松池藤岸佐野藤增村

阿工藤田相藤井槍濱佐小吉高藤個時欠小福山羽木伊正飯中中三岩今天織高矢佐野仲吉十坂包倉伊石須鳥綱山田藤大鈴長高峰佐山清藤新添五羅八田中

男箱小廣三加池芝村二西南廣木伊大羽高中瀧永根小工陣谷八淺渡穴高宮宮伊小北塚友羽志石原島安大北神長加火 村山中坪下爪石護赤寺片石小下

大貝松藤青稻松三福瀨山喜松伊龍瀧松武遠加中橫鶴千柳田長小宮青吉小羽欄伊淺寺關山伊海後柑柿松關新高高今石蛙荒岡小菊武松赤玉富武士安榎大

芳原渡淺金山望開掛酒岩谷大角内安光古小桑井下田飯伊松三石鹿中恩別神楢吉矢原中大鳥島片梅山福伊平金小平飯佐射松林佐山關山鈴瀧松高雙加

野月川子崎月 川井崎水野井 藤藤野賀山原澤田中島藤澤浦井 間山田府戶木澤崎福田山塚村田山澤木田藤子川山塚藤 越葉 藤 口野野木 浪岡 藤

市郎治榮子從枝子枝子貞子治郎敷生男一普雄三一史郎輝男義助益通雄昌久助助メ枝子んザ子ま實次雄郎助郎治山雄堆夫實久薰龍郎一郎藏じ

中元積秋岩鳩山桐國小高安根鈴鈴今穴其齊野佐野嘉淺今同會松根根白和點中山英伊石同立齊飯藤白淺石藤飯樂湯織高吉小本澤岩小石橋高早四...

野赤高芥中栗兼足竹浪片膠村石外外國高部長酒松浦泉賀芝深鎌佐高松齊中伊遠平河富湯小常山若稻高關小林伊宮池時多齊佐春鶴松鶴內扇福安鈴宮...

山成田山松齊林松小芝足齊時大青菊松字時池志永中稻高青石伊石内飯中齊加小鼓波坂佐別大町杉本鈴石小濱山伊石鈴時廣河高岩廣塚石渡關宮山長西...

齊岩森小門中規大牧古山木谷中西神安中天栗津杉關池竹加金植石平岩大山高藤石吉尾大官齊林伊越梅高和市精黒島長小石伊白伊矢御鈴田岡河江三...

大瀬小加長小高阿關菊高關朝床安菊推海大飯田海渡森 橋谷田藤山澤橋 地植 倉宿島地名野島島中老邊田...

茨

城

縣

井古所小江中金後官海申龜清濱小大同鈴赤床小小檜 上谷 林口川澤藤崎井澤山水 造 林橋田木塚宿川井...

山大志橋檜押三三宮山中山大岩高寺探江吹井鶴谷鎌岡岩鈴吉江鈴木井吉金鎌菅井多 田須津本垣田橋橋澤本村本野井橋田本口野 筒 岡 田 形 崎 崎 木 田 波 木 内 川 子 形 谷 澤...

伊渡五小服岡埴佐藤藤松清山鈴花竹行志瀬廣榮岩石加貝中木小清齊加中秋清大寺 藤 味 林 部 澤 賀 本 田 本 宮 本 木 島 内 方 津 尾 澤 崎 井 非 瀬 塚 村 原 川 宮 藤 藤 島 山 水 竹 本...

高柏長香佐金神坂青桑島石小大磯飯飯飯伊大鈴石竹早秋中朝神花大青金太加德勝佐青大飛鶴廣長岩永伊山小武小白武木山中鈴石河菊香松大織石貝芳...

飯篠櫻多栗伊宮野岡久東高安香秋香推橋成金推小佐石伊掛帆三香尾柏國飯三戶藤飯鈴野野松齊山寺渡青弓真宮金羽郡多香糸成岩菅村香大惟大宇...

鈴鈴大吉木永宇小布榮鈴橋推八林有長關石小平佐富佐吉高前平梅子齊日秋宇郡鈴鈴高越竹都木秋宮押增秋渡山小永石野篠高推木篠矢大石安大野高篠...

石村神宮島米高芝浪齊磯平山加小佐山小福渡宮鈴向谷佐岡渡石岩大多宮管護向佐山高林戶藤八野鈴平井田貫高林鈴吉高勝小石川平海林佐山橋管林山...

宮西伊木江廣須八鈴小今桐石栗藤飯伊石鈴鎌鈴八加成大宮視江鈴景長伊小阿宮片齋石伊江常石伊篠西三太鈴古大武久渡山岡宮宮井深佐西岩河河檜...

川鈴田和山戶伊立行加立小川白石村澁高片白内御波柏篠貝小鴉外金稻時尾穴海佐穴飯館鈴鈴高篠長金成名加伊石鶴遠高石小齋渡三宮池宮大中間中赤...

市大高中野伊渡石江海小近鈴片遠小山國酒市小吉石湯鈴内高鶴町松黒字石小高飯字千鶴古拓町加林金伊大湯海石永千石中日飯大鈴寄早大錦士林高川...